

4. 環境保全行動の実態と今後の意向(問4)

第三次環境基本計画では、10の重点分野ごとに展開プログラムが示され、関係主体の取り組むべきことを具体的に示されている。

本章では、同計画で取り上げられている国民の取り組むべきことに沿って設問項目を整理し、その実態と今後の意向を分析する。

4-1 環境保全行動全般

まず、「国民の役割」と設問項目として取り上げた環境保全行動種類との対応を示す。

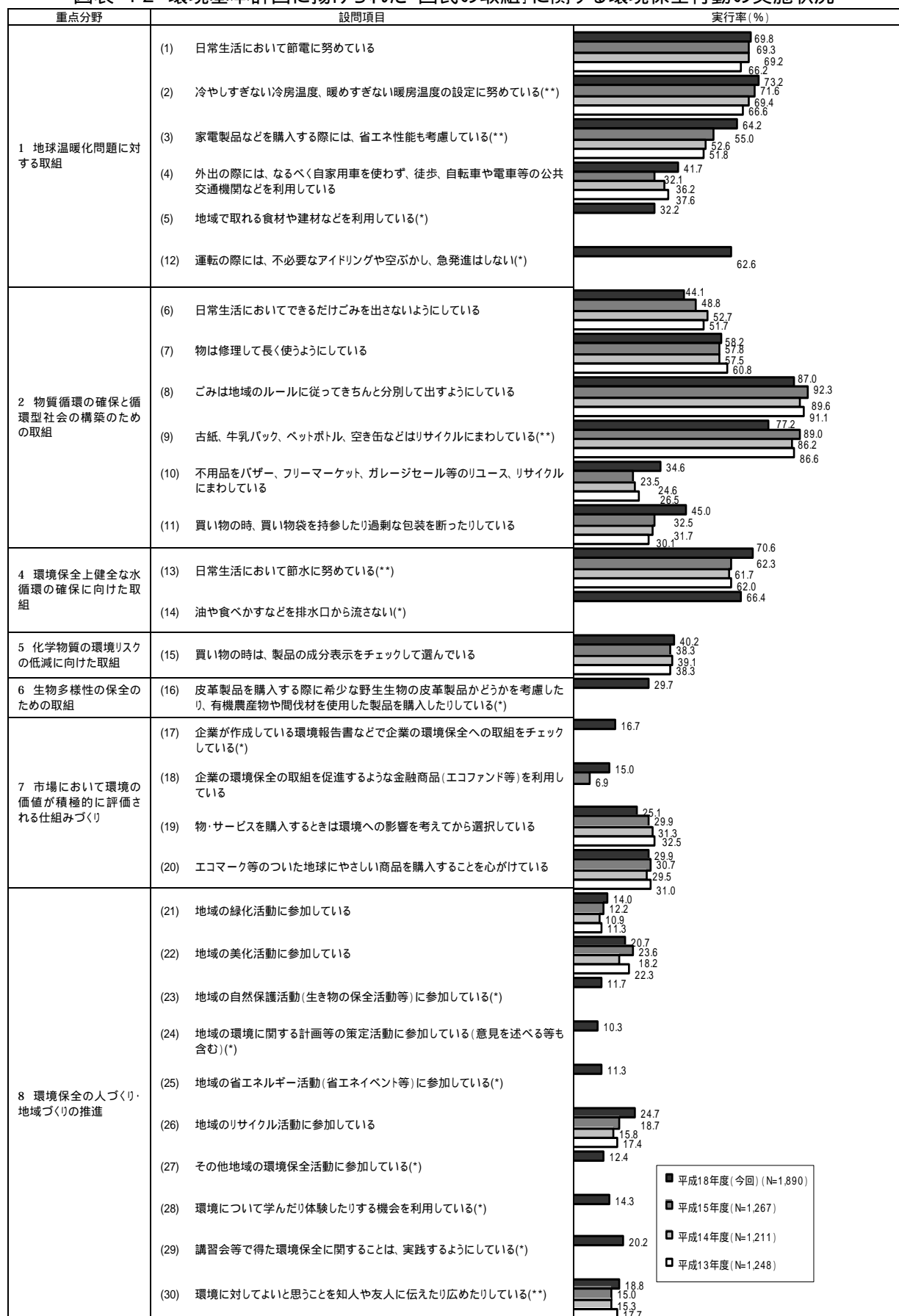
図表 4-1 環境保全行動の実態

重点分野	国民の役割	設問項目
1 地球温暖化問題に対する取組	<p>大量消費・大量廃棄型の生活様式の変革(住宅の断熱化、省エネルギー機器や燃費性能の優れた自動車への買換え、公共交通機関や自転車の利用促進、地域材の積極的利用等)</p> <p>リサイクル運動、森林づくり・都市緑化などの緑化運動等の温暖化対策活動への積極的な参加</p>	<p>(1) 日常生活において節電に努めている</p> <p>(2) 冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている</p> <p>(3) 家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している</p> <p>(4) 外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している</p> <p>(5) 地域で取れる食材や建材などを利用している</p> <p>(12) 運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない</p>
2 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組	<p>消費者・地域住民として、廃棄物等の排出を通じて環境への負荷を与える一方で、循環型社会づくりの担い手でもあるとの認識を踏まえた行動の実践</p>	<p>(6) 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている</p> <p>(7) 物は修理して長く使うようにしている</p> <p>(8) ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている</p> <p>(9) 古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている</p> <p>(10) 不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている</p> <p>(11) 買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている</p>
3 都市における良好な大気環境の確保に関する取組	<p>日々の暮らしが環境に大きな負荷を与えていることを認識し、エコハウス、低公害車等の環境負荷の小さい製品・サービスの利用を図るとともに、環境への負荷の小さい交通手段の利用、エコドライブの実施、冷暖房温度の適正化、こまめな節電・節水、庭先やベランダの緑化、再生水等による打ち水など、自ら環境負荷を軽減する視点からの積極的な取組の実践</p> <p>コミュニティとして環境負荷の低減を進めるための取組の実践</p> <p>民間団体は、国民、事業者、地方公共団体、国の取組が進むよう提言、情報発信を行うとともに、地域のコミュニティ活動に向けた取組に対する積極的な支援</p>	<p>「1 地球温暖化問題に対する取組」と同じ</p>
4 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組	<p>流域の水循環の現状について、その問題点を自ら認識して、それぞれの立場による意見の相違を克服し、目標となる望ましい水循環の姿を共有しようとする取組への主体的関与</p> <p>環境保全上健全な水循環の構築に向けた計画の策定等の取組に参加し、節水意識、汚濁負荷の排出の抑制、水の循環利用等に対する意識を向上させ、具体的な行動の実践</p>	<p>(13) 日常生活において節水に努めている</p> <p>(14) 油や食べかすなどを排水口から流さない</p>

重点分野	国民の役割	設問項目
5 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組	化学物質の環境リスクに関する的確な情報の入手と理解に努め、自らの生活で使用する化学物質に関する環境への負荷の低減への取組みの実践	(15) 買い物の際は、製品の成分表示をチェックして選んでいる
6 生物多様性の保全のための取組	国等の取組への参加にとどまらず、それぞれの地域における自発的な取組の実践 各主体間で生物多様性保全に向けた問題意識を共有し、連携を保ちつつそれぞれの取組を推進	(16) 皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている
7 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり	消費者は、消費行動が企業の環境に対する取組を大きく左右することを認識し、得られる情報を元に環境に配慮された商品の選好	(17) 企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている (18) 企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している (19) 物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している (20) エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている
8 環境保全の人づくり・地域づくりの推進	様々な環境保全に関わる取組への積極的な参加・参画、地域づくりに関する計画策定への参加・参画 講習会等で得た知見や技術の、地域における環境保全に関わる取組への活用 日常生活への環境配慮の織り込み	(21) 地域の緑化活動に参加している (22) 地域の美化活動に参加している (23) 地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している (24) 地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む) (25) 地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している (26) 地域のリサイクル活動に参加している (27) その他地域の環境保全活動に参加している (28) 環境について学んだり体験したりする機会を利用している (29) 講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている (30) 環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている

設問項目の番号((1)、(2)...)は、アンケート調査票の設問の順番に対応する。

図表 4-2 環境基本計画に揚げられた「国民の取組」に関する環境保全行動の実施状況



注) 1. * 印のものは、今回の調査より追加した項目を示す。

2. ** 印のものは、設問が前回と異なる。

3. 設問項目の番号((1)、(2)...)は、アンケート調査票の設問の順番に対応する。

次に、国民に期待される取組の分類ごとに結果をみると以下のとおりである。

1 地球温暖化問題に対する取組

実行率(4段階の回答のうち、「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計)が高かったのは、「日常生活において節電に努めている」(70%)

「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」(73%)

「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」(64%)

「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」(63%)

である。

一方で、実行率が低かったのは、

「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」(42%)

「地域で取れる食材や建材などを利用している」(32%)

である。

2 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

実行率が高かったのは、

「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(87%)

「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」(77%)

一方で実行率が低かったのは、

「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている」(35%)

などである。

4 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組

いずれの項目も約6割を超え、実行率が高い。

5 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組

実行率を前回調査と比較すると、ポイントがやや増加している。

6 生物多様性の保全のための取組

実行率は、約3割となっており、他の項目と比較するとややポイントが低い。

7 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり

全ての項目において実行率が30~15%となっており、他の項目と比較するとやや低いポイントとなっている。

8 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

全ての項目において実行率が25~15%となっており、他の項目と比較するとやや低いポイントとなっている。

4-2 現在の実施状況

環境保全行動のうち、「個人」で対応できるものや家庭内の工夫により対応が可能なものについては実行率が高い(ごみ出しや資源物の分別排出等のルール化されたもの、節電・節水等の金銭的な負担に関わるもの)。また、民間団体の活動参加や支援を通じた活動は高まりつつあるが、「地域」や「国・自治体」主導での行動は実行率が低い。

環境保全行動を「どの程度行っているか」という質問に対して、「いつも行っている」または「だいたい行っている」と回答した割合(実行率)が70%以上の項目は以下のとおりである。

(1) 実行率が70%以上の項目

- ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている(87%)
- 古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている(77%)
- 冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている(73%)
- 日常生活において節水に努めている(71%)

これらの4項目のうち2つはごみに関するものであり、排出のマナーや分別は国民に定着していることがうかがえる。また、ごみに関する項目については以下のとおりである。

(2) その他ごみに関する項目

- 物は修理して長く使うようにしている(58%)
- 買い物時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている(45%)
- 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている(44%)
- 不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている(35%)

(3) 地球温暖化問題に対する取組

- 日常生活において節電に努めている(70%)
- 冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている(73%)
- 家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している(64%)
- 外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している(42%)
- 地域で取れる食材や建材などを利用している(32%)
- 運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない(63%)

(4) 実行率が30%未満の項目

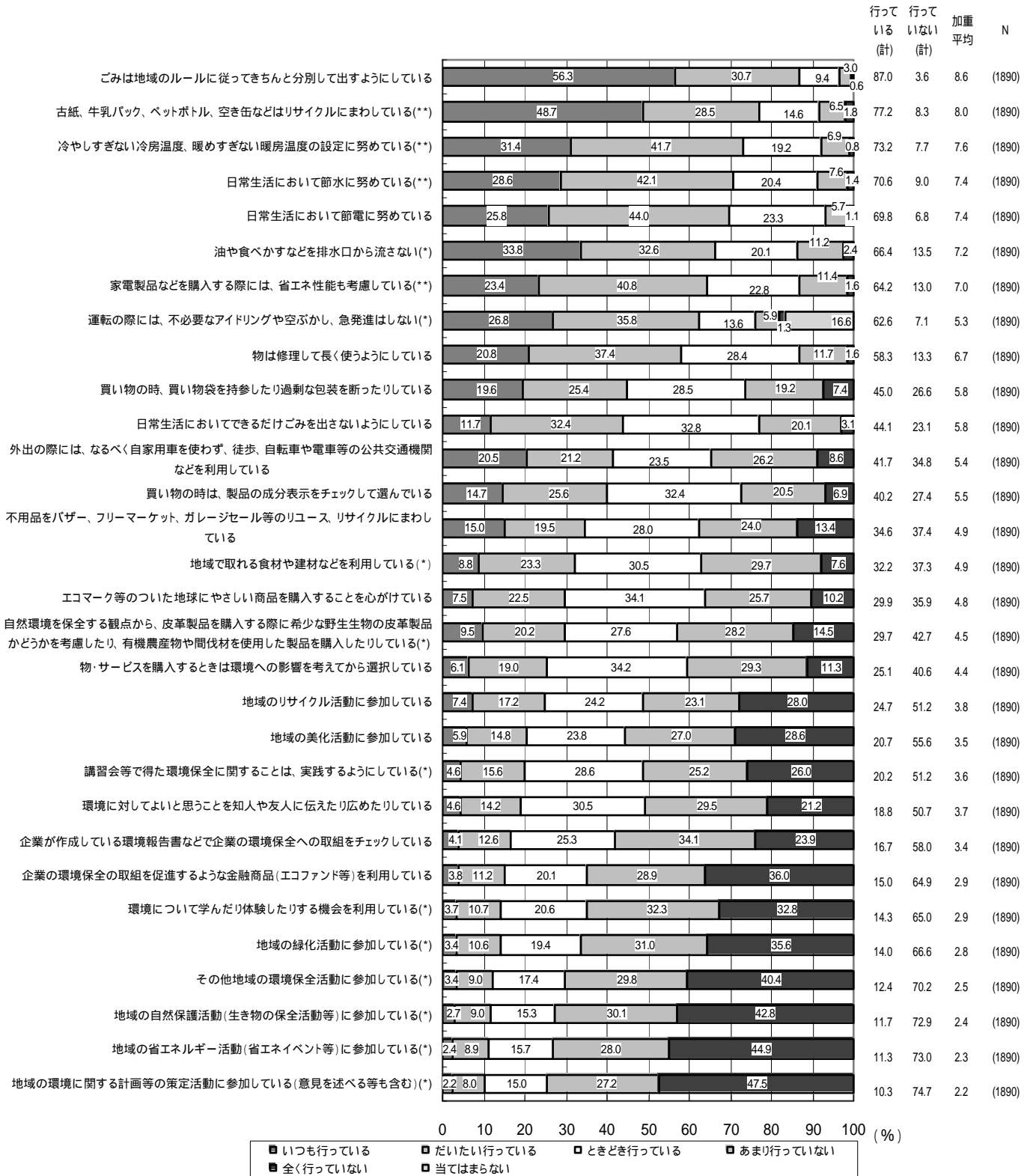
- エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている(30%)
- 自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている(30%)
- 物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している(25%)
- 地域のリサイクル活動に参加している(25%)

- 地域の美化活動に参加している(21%)
- 講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている(20%)
- 環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている(19%)
- 企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている(17%)
- 企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している(15%)
- 環境について学んだり体験したりする機会を利用している(14%)
- 地域の緑化活動に参加している(14%)
- その他地域の環境保全活動に参加している(12%)
- 地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している(12%)
- 地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している(11%)
- 地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)(10%)

以上の結果により、環境保全行動については、ごみ出しや節電・節水等の「個人」で対応できる行動や家庭内の工夫で取り組める行動の実行率は高いが、「地域」や「国・自治体」主導による行動や参加が必要なものは実行率が低い様子が見られる。

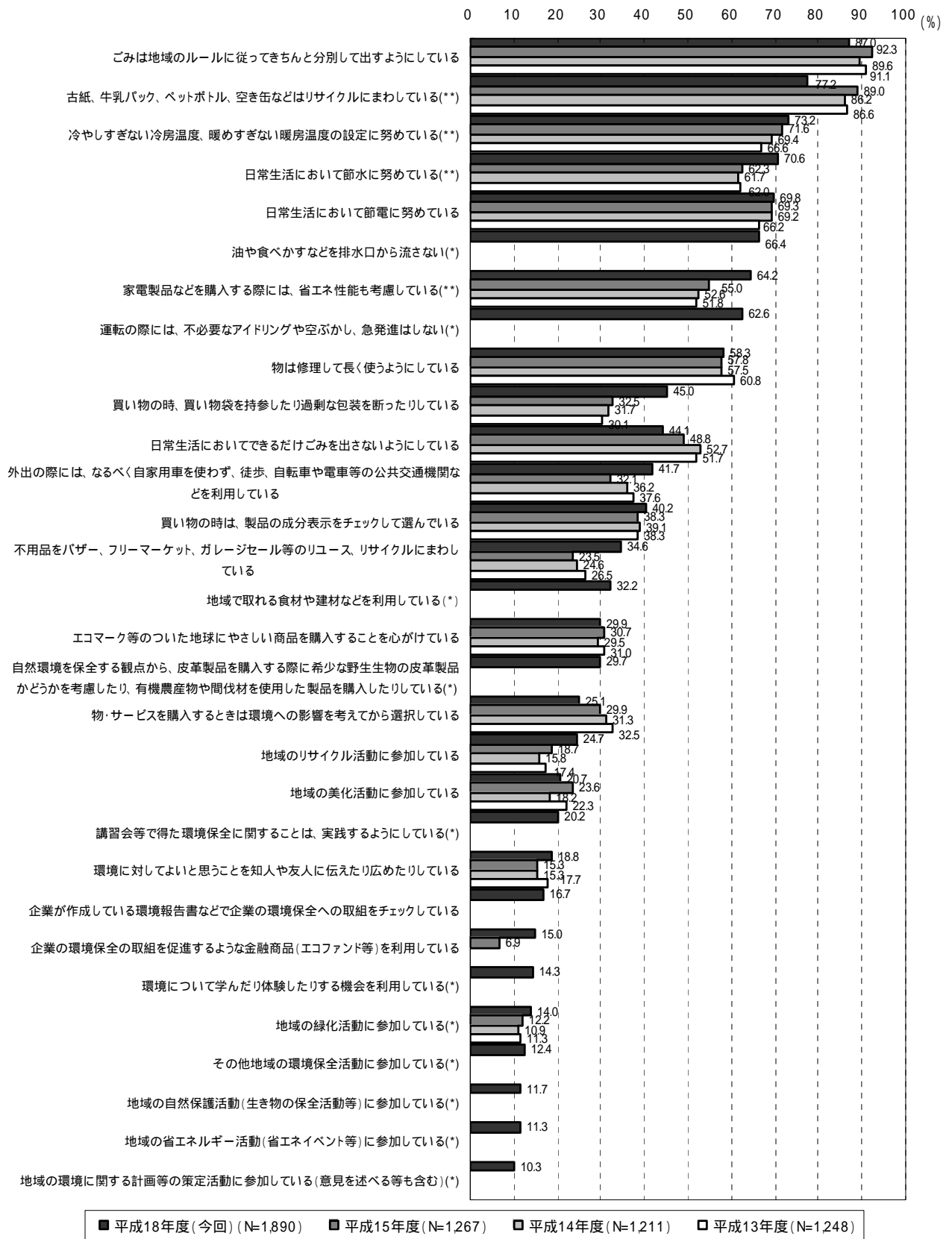
なお、前回調査と比較して上昇した項目(5ポイント以上)は、「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(33 45%)であり、低下した項目(5ポイント以上)は「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」(49 44%)である。

図表 4-3 環境保全行動の実態(全体)



注) 1. この項の加重平均は、「いつも行っている」に 10 点、「だいたい行っている」に 8 点、「ときどき行っている」に 5 点、「あまり行っていない」に 2 点、「全く行っていない」に 0 点、を与えて算出した。
 2. * 印のものは、今回の調査より追加した項目を示す。
 3. ** 印のものは、前回の調査と設問が異なる。

図表 4-4 環境保全行動の実態(全体、時系列)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)



注) 1. * 印のものは、今回の調査より追加した項目を示す。
 2. ** 印のものは、前回の調査と設問が異なる。

環境保全行動の実行率について、性別では、男性の方が女性よりも実行率が 5 ポイント以上高い項目は「運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」のみである。一方、女性の方が男性よりも実行率が 10 ポイント以上高い項目は以下に示すとおりである。環境保全行動は、女性の方が積極的に実行していることがうかがえる。

- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
- 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている」
- 「地域で取れる食材や建材などを利用している」

年齢別にみて、実行率が全体よりも高い項目(10 ポイント以上)は次のとおりである。

- 60 代 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」
「日常生活において節電に努めている」
「油や食べかすなどを排水口から流さない」
「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
「物は修理して長く使うようにしている」
「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 70 代以上 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
「物は修理して長く使うようにしている」
「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」

職業別にみて、実行率が全体よりも高い項目(15 ポイント以上)は次のとおりである。

- 農林漁業 「油や食べかすなどを排水口から流さない」
「物は修理して長く使うようにしている」
- 自由業 「物は修理して長く使うようにしている」
- 会社役員・会社経営 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている」
「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」
「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている」
「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している」
「環境について学んだり体験したりする機会を利用している」
「地域の緑化活動に参加している」
- 学生 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 専業主婦 「油や食べかすなどを排水口から流さない」

図表 4-5 環境保全行動の実態(性別、年齢別、職業別)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)

単位: %

	性別			年代別							職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他		
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60		
ごみは地域のルールに従ってきちんと分別し出すようになっている	87.0	84.2	90.9	82.3	85.1	87.1	90.8	95.2	89.6	85.0	92.1	87.7	88.9	83.2	86.1	93.3	78.8	85.8	95.3	89.0	80.0		
古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている	77.2	73.8	81.7	68.7	76.3	76.3	82.3	89.2	79.9	80.0	78.7	75.4	80.6	72.3	79.7	86.7	69.7	74.7	88.3	75.9	78.3		
冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている	73.2	69.4	78.3	67.5	72.9	74.0	75.6	80.1	73.1	80.0	80.9	73.7	72.2	67.2	74.7	76.7	65.2	74.1	86.4	68.1	73.3		
日常生活において節水に努めている	70.6	68.5	73.5	66.4	70.1	72.6	71.4	76.5	70.1	75.0	69.7	73.7	77.8	67.6	72.2	70.0	66.7	66.0	81.9	63.9	70.0		
日常生活において節電に努めている	69.8	66.7	74.1	62.6	66.7	72.9	73.1	82.5	72.4	80.0	74.2	68.4	72.2	64.9	68.4	60.0	68.2	66.0	82.5	67.0	73.3		
油や食べかすなどを排水口から流さない	66.4	60.6	74.2	56.2	63.9	68.6	74.2	77.7	67.9	75.0	68.5	70.2	75.0	59.1	64.6	56.7	53.0	74.1	81.9	63.4	60.0		
家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している	64.2	60.3	69.5	57.1	65.7	64.6	66.4	71.7	61.2	75.0	70.8	66.7	61.1	58.0	70.9	73.3	53.0	63.6	75.8	61.3	68.3		
運転の際には、不要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない	62.6	66.5	57.5	55.7	65.4	68.0	66.1	59.0	51.5	80.0	74.2	63.2	75.0	64.6	77.2	66.7	50.0	61.7	59.2	50.8	61.7		
物は修理して長く使うようにしている	58.3	59.5	56.5	54.2	53.9	52.9	63.6	73.5	72.4	75.0	61.8	78.9	63.9	53.8	59.5	53.3	59.1	53.7	59.2	63.4	70.0		
買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	45.0	39.0	53.0	39.4	45.3	44.0	44.9	53.6	50.0	35.0	43.8	42.1	55.6	39.3	44.3	40.0	37.9	46.3	59.2	41.9	48.3		
日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	44.1	41.9	47.0	33.9	41.2	41.4	51.9	57.2	58.2	45.0	47.2	42.1	58.3	37.4	51.9	36.7	36.4	43.8	53.1	47.1	55.0		
外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車の公共交通機関などを利用している	41.7	40.3	43.6	41.7	38.1	31.1	47.0	52.4	61.2	30.0	36.0	50.9	41.7	34.9	39.2	26.7	62.1	45.1	44.4	53.9	53.3		
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	40.2	35.0	47.2	38.6	37.3	42.3	42.0	47.6	39.6	35.0	31.5	52.6	55.6	32.8	35.4	43.3	40.9	46.3	51.7	37.7	51.7		
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている	34.6	29.6	41.1	36.8	35.1	32.0	33.6	36.1	32.8	20.0	34.8	22.8	50.0	32.8	30.4	23.3	37.9	35.2	43.1	28.3	36.7		
地域で取れる食材や建材などを利用している	32.2	28.5	37.0	31.3	31.4	28.9	29.7	41.0	41.0	40.0	30.3	40.4	44.4	26.2	30.4	40.0	25.8	35.2	39.2	35.1	36.7		
エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている	29.9	28.6	31.7	28.1	28.4	24.9	33.9	37.3	37.3	20.0	31.5	22.8	44.4	26.5	34.2	43.3	36.4	30.2	33.1	29.3	35.0		
皮革製品を購入する際に希少な野生動物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている	29.7	27.7	32.5	25.5	26.0	29.1	35.7	37.3	37.3	20.0	30.3	26.3	47.2	25.9	29.1	36.7	27.3	32.7	34.4	27.7	41.7		
物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している	25.1	24.6	25.8	22.0	24.2	22.6	29.3	27.7	32.1	15.0	25.8	21.1	38.9	23.6	27.8	20.0	24.2	23.5	28.1	23.0	35.0		
地域のリサイクル活動に参加している	24.7	25.1	24.1	18.0	20.8	29.1	31.1	30.7	26.9	10.0	29.2	17.5	30.6	22.7	30.4	36.7	25.8	24.7	28.3	21.5	23.3		
地域の美化活動に参加している	20.7	22.1	18.8	13.3	16.3	23.4	29.7	30.1	21.6	10.0	24.7	19.3	33.3	18.9	29.1	30.0	18.2	22.2	21.7	18.3	18.3		
講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている	20.2	20.4	20.0	17.4	20.8	20.6	20.8	22.9	19.4	5.0	21.3	15.8	30.6	19.7	27.8	33.3	22.7	22.2	19.7	14.1	25.0		
環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている	18.8	19.1	18.5	18.8	19.4	18.6	17.0	21.7	17.2	20.0	15.7	10.5	33.3	18.8	29.1	30.0	19.7	21.6	18.6	12.0	18.3		
企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている	16.7	18.4	14.3	16.8	16.7	14.9	17.0	16.3	20.9	20.0	16.9	10.5	36.1	17.4	27.8	13.3	16.7	17.9	13.3	13.1	15.0		
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している	15.0	16.1	13.5	15.1	14.5	13.1	15.5	18.1	16.4	15.0	13.5	12.3	30.6	16.1	20.3	13.3	16.7	14.8	11.9	11.5	18.3		
環境について学んだり体験したりする機会を利用している	14.3	16.1	12.0	16.5	11.6	15.7	15.5	13.9	15.7	0.0	10.1	12.3	33.3	15.1	24.1	26.7	21.2	14.8	11.1	9.4	13.3		
地域の緑化活動に参加している	14.0	16.0	11.4	12.2	11.4	13.7	17.3	19.9	17.2	10.0	15.7	12.3	30.6	13.5	24.1	16.7	19.7	13.6	11.9	12.6	8.3		
その他地域の環境保全活動に参加している	12.4	13.9	10.5	13.6	11.4	11.4	13.4	14.5	11.9	5.0	9.0	14.0	22.2	12.2	24.1	13.3	24.2	13.0	8.9	8.9	18.3		
地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している	11.7	13.2	9.8	10.7	10.6	12.0	13.4	14.5	11.9	10.0	11.2	7.0	25.0	12.6	16.5	6.7	18.2	12.3	9.7	7.3	13.3		
地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している	11.3	13.1	8.9	11.3	10.3	11.7	12.0	12.0	12.7	20.0	6.7	7.0	22.2	12.7	17.7	10.0	18.2	11.7	8.6	6.3	11.7		
地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)	10.3	11.7	8.4	10.4	9.6	10.3	11.0	10.2	11.2	0.0	9.0	5.3	25.0	11.9	15.2	10.0	13.6	10.5	7.2	5.8	13.3		

環境保全行動の実行率について、地域別にみると概して九州は全体より実行率が高い項目が多く、北陸、中部は全体より実行率が低い項目が多い。全体より実行率が 5 ポイント以上高い項目を地域別にみると以下のとおりである。

- 北海道・東北
 - 「運転の際には、 unnecessary アイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
 - 「物は修理して長く使うようにしている」
 - 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
- 関東
 - 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 中部
 - 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」
 - 「運転の際には、 unnecessary アイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
- 近畿
 - 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 中国・四国
 - 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
- 九州
 - 「運転の際には、 unnecessary アイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
 - 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
 - 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
 - 「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている」
 - 「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」
 - 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択している」
 - 「地域のリサイクル活動に参加している」「地域の美化活動に参加している」
 - 「講習会等で得た環境保全に関する情報は、実践するようにしている」
 - 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」
 - 「環境について学んだり体験したりする機会を利用している」
 - 「地域の緑化活動に参加している」
 - 「その他地域の環境保全活動に参加している」
 - 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している」

都市規模が大きいほど実行率が高くなる項目は、

- 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」である。

一方、都市規模が小さいほど実行率が高くなる項目は、

- 「日常生活において節水に努めている」
- 「運転の際には、 unnecessary アイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
- 「地域のリサイクル活動に参加している」
- 「地域の美化活動に参加している」
- 「講習会等で得た環境保全に関する情報は、実践するようにしている」
- 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」
- 「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている」
- 「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している」

- 「環境について学んだり体験したりする機会を利用している」
- 「地域の緑化活動に参加している」
- 「その他地域の環境保全活動に参加している」
- 「地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している」
- 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している」
- 「地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)」

である。

図表 4-6 環境保全行動の実態(地域別、都市規模別)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)

	単位: %											
	全体	地域別							都市規模別			
		北海道 東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・ 四国	九州	政令 指定 都市	1 0 万 人 以 上	1 0 万 人 未 満	町 村
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301
ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	87.0	90.4	87.7	84.6	87.1	86.0	84.8	86.3	88.3	88.1	84.3	86.4
古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている	77.2	81.8	78.5	73.1	82.6	73.0	71.5	76.4	77.7	76.9	74.8	80.4
冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている	73.2	73.7	75.7	66.7	72.2	71.7	70.2	73.6	78.6	73.0	68.8	71.1
日常生活において節水に努めている	70.6	72.7	69.9	66.7	74.3	69.4	66.2	73.6	69.5	69.8	70.9	73.8
日常生活において節電に努めている	69.8	71.2	71.7	66.7	70.1	69.1	66.9	67.5	71.6	69.4	68.8	69.8
油や食べかすなどを排水口から流さない	66.4	68.2	68.3	52.6	66.0	65.3	62.9	69.3	71.1	65.4	63.3	65.8
家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している	64.2	66.2	64.7	53.8	62.7	65.6	58.3	68.4	65.9	64.3	60.4	66.4
運転の際には、必要ないアイドリングや空ぶかし、急発進はしない	62.6	67.7	58.4	59.0	69.3	60.7	60.3	69.3	54.2	62.6	65.1	72.4
物は修理して長く使うようにしている	58.3	66.7	58.1	55.1	51.0	60.5	54.3	59.0	59.1	58.7	56.4	57.8
買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	45.0	46.0	46.9	38.5	47.3	46.7	35.1	42.0	47.4	43.8	43.8	45.8
日常生活においてできるだけごみを減らさないようにしている	44.1	41.9	47.7	37.2	43.6	43.1	39.7	43.9	44.0	45.0	41.7	45.2
外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している	41.7	37.9	49.2	17.9	33.6	52.0	27.8	32.1	53.7	44.0	33.1	29.2
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	40.2	40.9	41.9	25.6	39.4	38.3	33.8	49.1	41.8	38.5	40.9	41.5
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている	34.6	38.9	38.3	26.9	32.8	29.6	31.1	35.8	34.8	33.7	33.1	37.9
地域で取れる食材や建材などを利用している	32.2	40.9	33.0	34.6	22.4	23.7	37.7	43.4	30.0	31.4	35.7	32.2
エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている	29.9	28.8	33.8	23.1	24.9	27.3	27.2	34.9	28.4	29.9	29.9	31.9
皮革製品を購入する際に希少な野生動物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている	29.7	28.8	32.2	25.6	24.1	28.1	25.2	37.7	31.4	29.7	25.7	32.2
物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している	25.1	25.3	27.7	19.2	22.0	21.7	22.5	31.6	23.9	24.9	23.6	29.2
地域のリサイクル活動に参加している	24.7	26.3	24.8	17.9	27.0	20.7	19.2	34.0	21.2	23.0	27.6	30.2
地域の美化活動に参加している	20.7	21.7	19.6	20.5	17.4	19.6	20.5	28.8	15.3	19.9	23.6	26.2
講習会等で得た環境保全に関する情報は、実践するようにしている	20.2	22.2	20.1	23.1	19.9	18.4	14.6	25.5	17.6	19.6	21.5	23.9
環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている	18.8	20.7	19.6	20.5	16.2	16.6	9.9	27.8	14.2	18.1	20.7	24.9
企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている	16.7	18.2	19.7	12.8	12.0	14.3	11.9	20.8	14.7	15.6	16.3	22.6
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している	15.0	18.7	17.0	11.5	13.3	11.5	8.6	19.8	13.3	14.0	15.0	19.6
環境について学んだり体験したりする機会を利用している	14.3	13.6	14.9	10.3	15.8	12.2	9.9	20.3	12.2	14.3	14.7	16.9
地域の緑化活動に参加している	14.0	15.2	15.2	5.1	11.2	13.5	10.6	19.3	12.2	13.8	14.2	16.9
その他地域の環境保全活動に参加している	12.4	13.6	13.3	9.0	10.0	10.7	9.3	18.4	10.6	10.9	15.2	15.3
地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している	11.7	16.2	11.8	9.0	11.2	9.7	6.6	16.5	9.3	11.3	12.9	15.0
地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している	11.3	14.6	11.2	10.3	11.6	8.7	6.6	17.0	8.1	10.9	13.6	14.0
地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)	10.3	14.6	11.0	6.4	10.8	6.9	6.0	14.2	7.4	10.0	11.5	13.3

4-3 将来の実施意向

環境保全行動に対する今後の実施意向が高い項目は、ごみ出しでのルール順守や資源分別、節電、適切な温度調節など、現在実施されているものが中心となっている。

将来実施の意向を尋ねたところ、過半数の人が「行いたいと思う」と回答した項目は全 30 項目中 12 項目にのぼった。

このうち、「行いたいと思う」と回答した比率が(「意向率」)が、50%以上と高い項目は以下のとおりである。

意向率 50%以上の項目

- 「日常生活において節水に努める」(77%)
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」(76%)
- 「日常生活において節電に努める」(71%)
- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわす」(66%)
- 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮する」(66%)
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」(65%)
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりする」(62%)
- 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」(58%)
- 「物は修理して長く使うようにする」(54%)
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努める」(52%)
- 「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がける」(52%)
- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出ようにする」(52%)

また、上記に続く意向率 40%台の項目は以下のとおりである。

意向率 40%台の項目

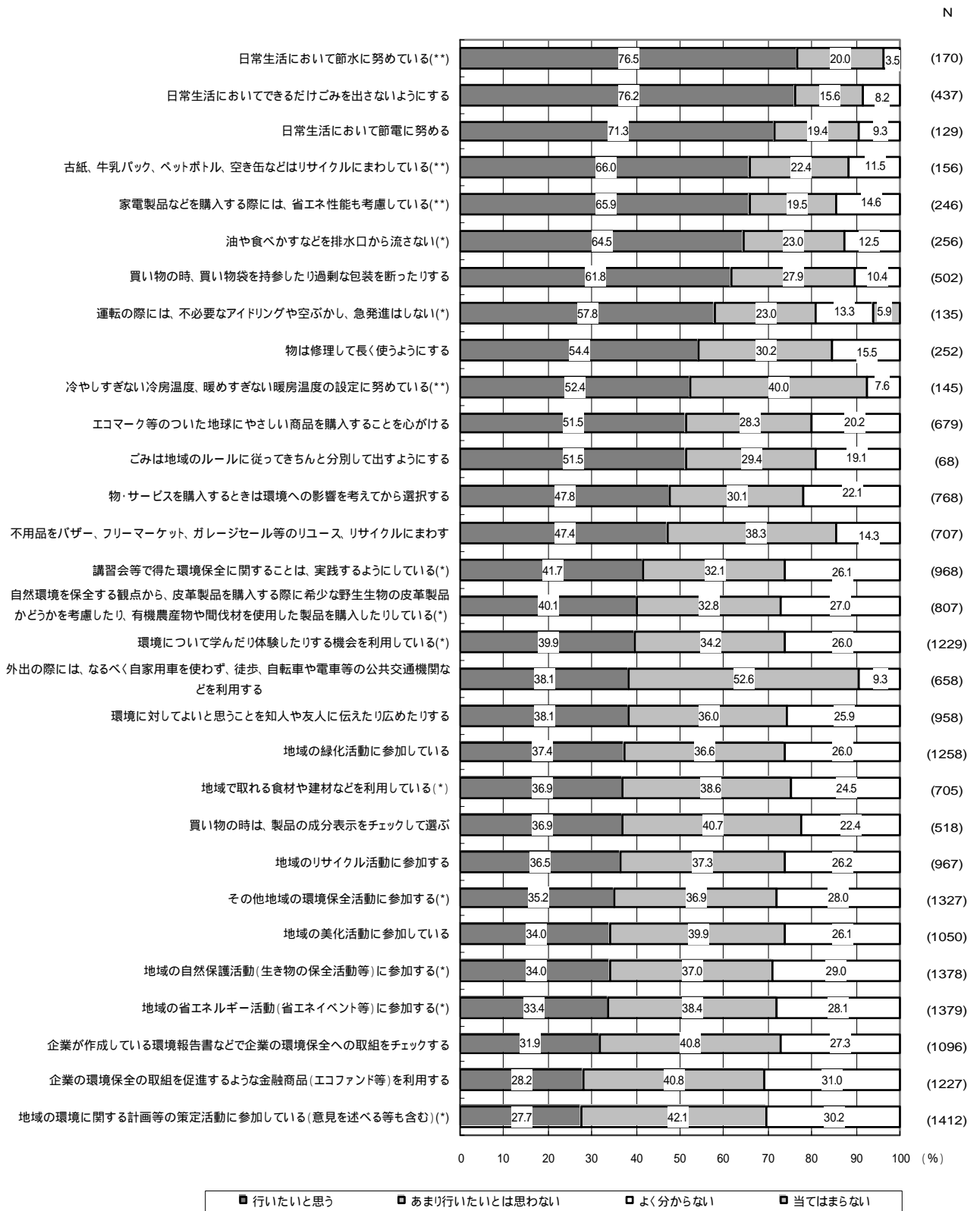
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択する」(48%)
- 「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす」(47%)
- 「講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにする」(42%)
- 「自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生動物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする」(40%)

前回の調査と比較すると、前回よりも意向率が 5 ポイント以上上昇した項目は「日常生活において節水に努めている」「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりする」「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」「日常生活において節電に努める」「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」である。また、意向率の低下が顕著である項目は以下のとおりである。

意向率の低下が顕著である項目

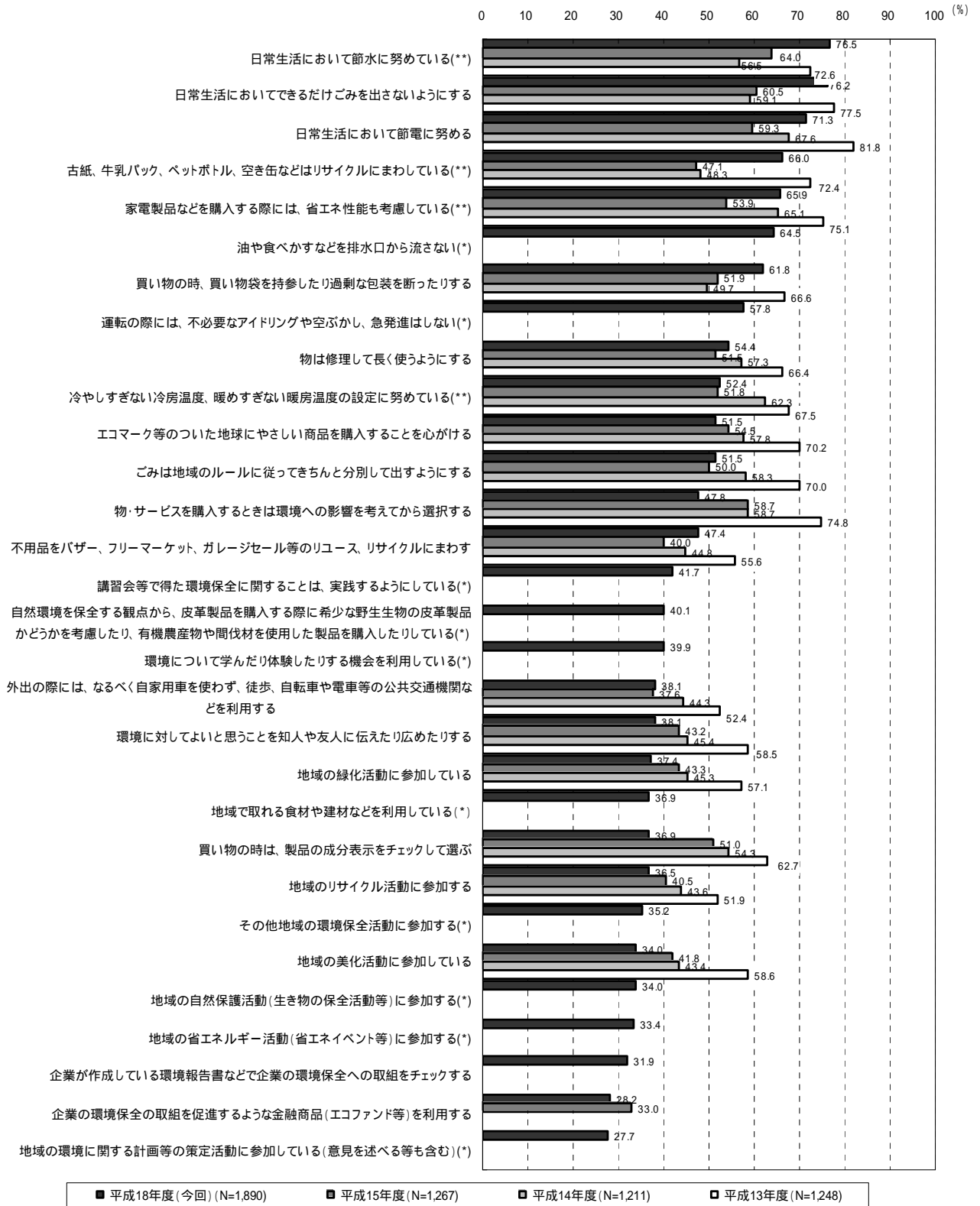
「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選ぶ」(51% 37% : 14 ポイント減)

図表 4-7 将来の実施意向
 (「あまり行っていない」「全く行っていない」を選択した人のみ)



注) 1. *印は今回の調査で加えた項目である。
 2. **印は、前回調査と設問が異なる。

図表 4-8 将来の実施意向(時系列)
 (「あまり行っていない」「全く行っていない」を選択した人のみ)



注) 1. * 印は今回の調査で加えた項目である。
 2. * * 印は、前回調査と設問が異なる。

4-3-1 将来の実施意向(全員回答)

既に実施済みのもも含んだ今後の実施意向においては、ごみ出しでのルール順守や資源分別、節電、適切な温度調節など、現在実施されている項目が高い。

実施率が低いが実施意向が高い項目は「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている」のみである。「個人」で対応できる項目の意向率は高いが、「地域」や「集団」での対応が必要な項目の意向率は低い。

将来実施の意向を尋ねたところ。過半数の人が「行いたいと思う」と回答した項目は全 30 項目中 23 項目にのぼった。

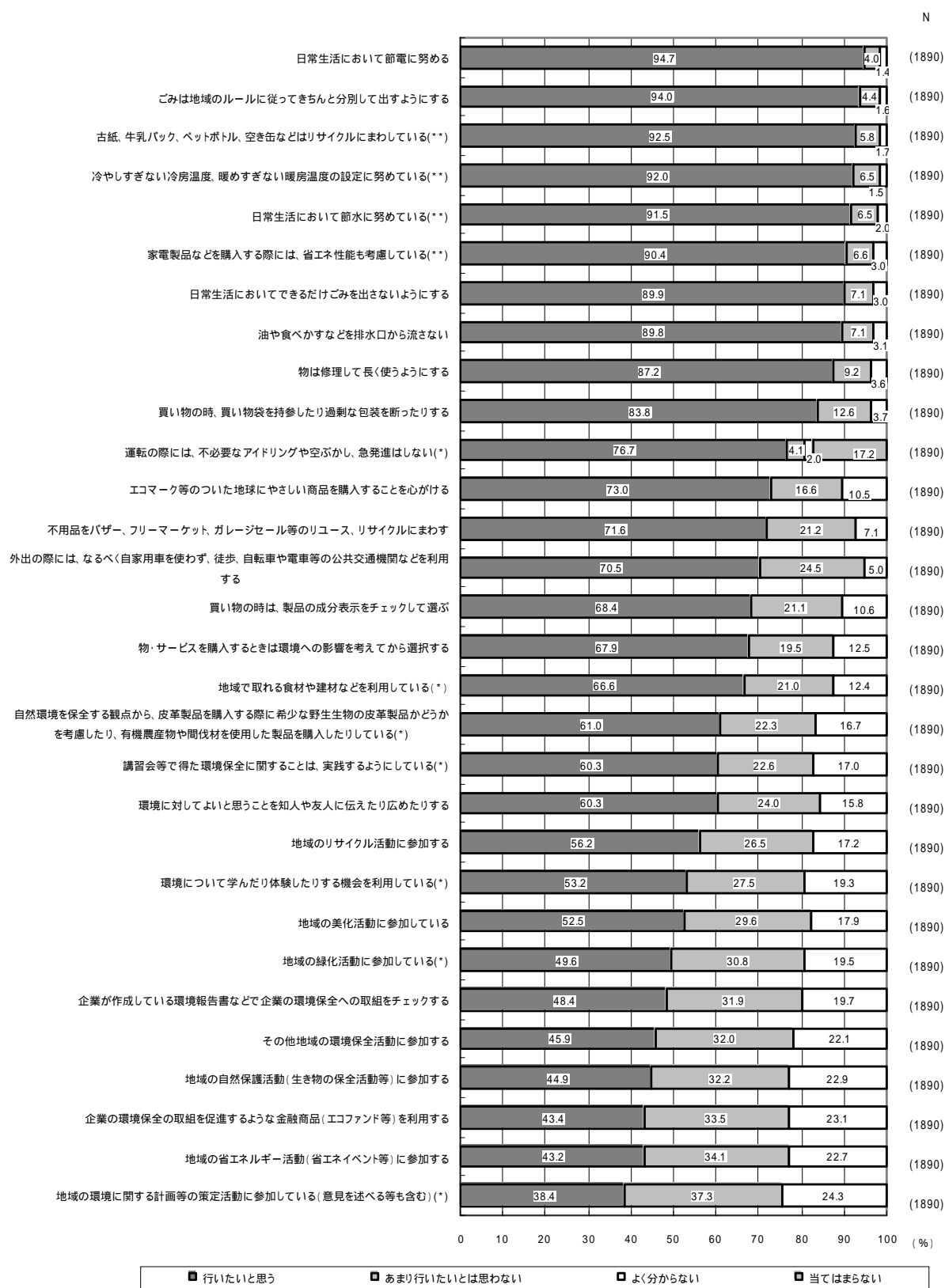
このうち、「行いたいと思う」と回答した比率が(「意向率」)が、高い項目(90%以上)は以下のとおりである。

- 日常生活において節電に努めたいと思う(95%)
- ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出ようにしたいと思う(94%)
- 古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしたいと思う(93%)
- 冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めたいと思う(92%)
- 日常生活において節水に努めたいと思う(92%)
- 家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮したいと思う(90%)
- 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしたいと思う(90%)
- 油や食べかすなどを排水口から流さないようにしたいと思う(90%)

一方、意向率の低い項目は以下のとおりである。

- 地域の環境に関する計画等の策定活動に参加したいと思う(38%)
- 地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加したいと思う(43%)
- 企業の環境保全の取組を促すような金融商品(エコファンド等)を利用したいと思う(43%)
- 地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加したいと思う(45%)
- その他の地域の環境保全活動に参加したいと思う(46%)
- 企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全の取組をチェックしたいと思う(48%)

図表 4-9 環境保全行動の今後の意向(全体)



注) 1. * 印のものは、今回の調査より追加した項目を示す。

2. ** 印のものは、前回の調査と設問が異なる。

4-4 住宅に関する環境保全行動

4-4-1 太陽熱温水器・太陽光発電の利用状況

太陽熱温水器・太陽光発電の利用率は低いが、将来における利用希望する人の比率は過去の調査では減少傾向を示していたが、今回は3割弱と前回より大きく増加している。

(1) 太陽熱温水器

太陽熱温水器の利用状況について、現在「利用している」人は、10%である。これに「利用していないが、将来は利用したい」(30%)を加えると、利用意向を持つ人は約4割にのぼる。

前回調査と比較すると、「将来は利用したい」が約10ポイント上昇しており、「将来も利用する予定は無い」が約4ポイント減少した。

性別では、男性の方が女性よりも利用の意向が高い傾向がみられる。

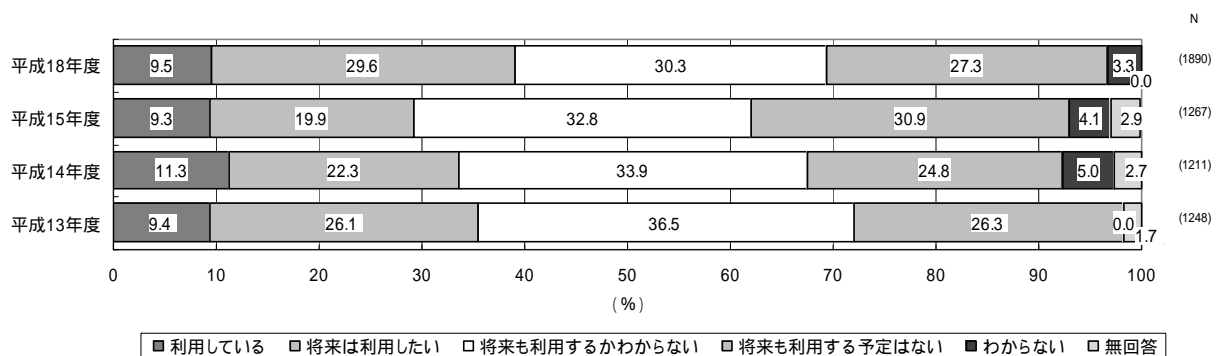
年齢別では、「将来は利用したい」は30代(34%)、「将来も利用する予定はない」は60代(34%)でやや多くなっている。

職業別では、「利用している」は農林漁業(40%)で高い。また、「将来は利用したい」は、団体職員(43%)で高い。また、「将来も利用するかわからない」が商工販売サービス(36%)、団体職員(33%)、専業主婦(33%)で高い。「将来も利用する予定はない」が無職(40%)で高い。

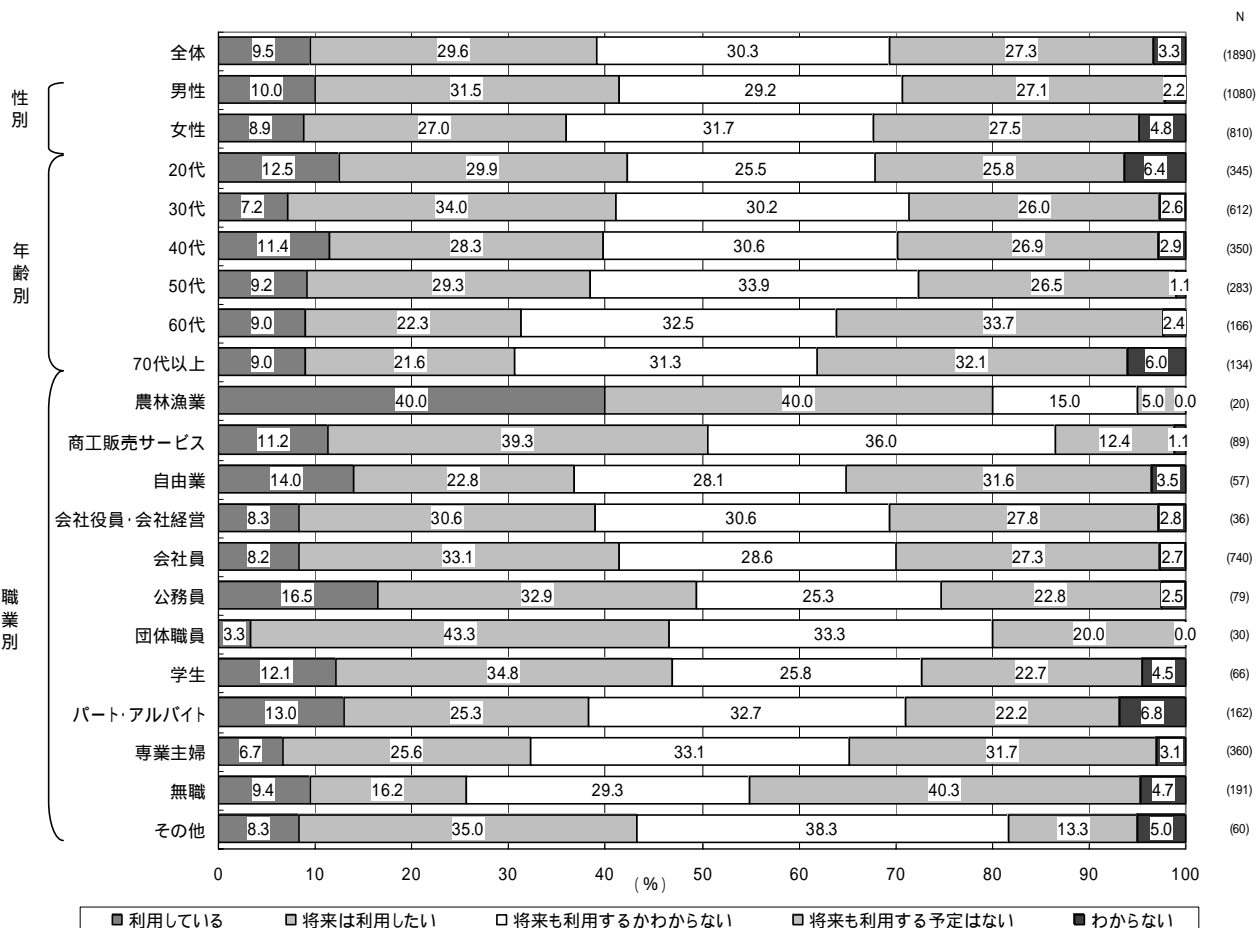
地域別では、「利用している」は九州(16.5%)、中部(12%)で高いのに対し、北海道・東北(7.1%)、関東(7.8%)は低い。「将来は利用したい」は北海道・東北(33%)、北陸(33%)、九州(34%)で高い。

都市規模別では、利用率は政令指定都市で4%、町村で15%と、都市規模が小さいほど普及している傾向にある。

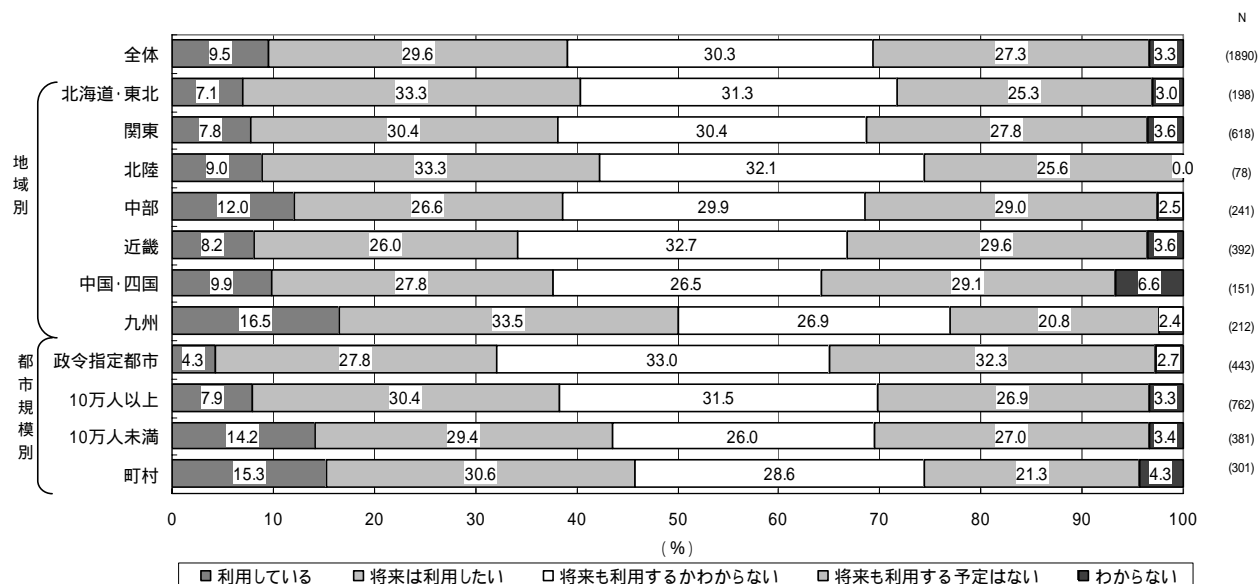
図表 4-10 太陽熱温水器の利用状況(全体、時系列)



図表 4-11 太陽熱温水器の利用状況(性別、年齢別、職業別)



図表 4-12 太陽熱温水器の利用状況(地域別、都市規模別)



(2) 太陽光発電器の利用状況

太陽光発電を、現在「利用している」は 5%である。また、「将来は利用したい」を加えると 4 割を超える。

前回調査と比較すると、「利用している」は 3 ポイント上昇し、「将来は利用したい」は 15 ポイント上昇しているが、一方、「将来も利用する予定はない」は 5 ポイント減少している。

性別では、「将来は利用したい」は男性の方が 7 ポイント高い。

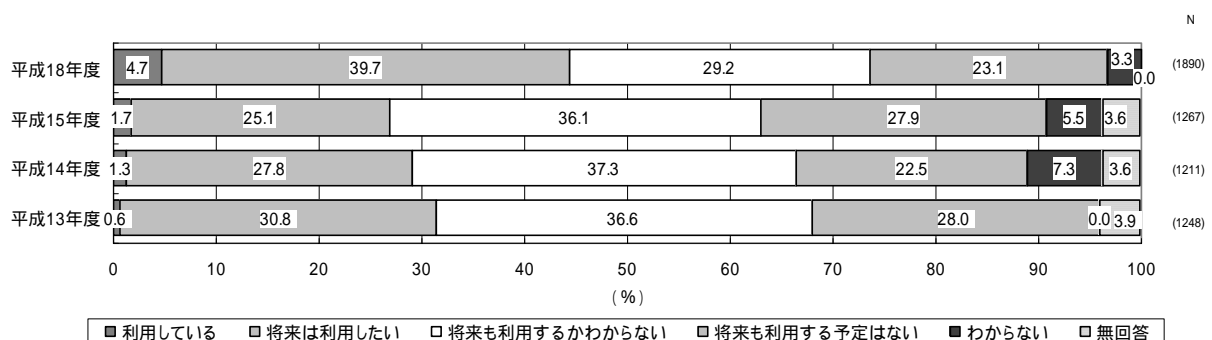
年齢別では、「利用している」は 20 代(8%)、30 代(5.1%)で高い。「将来は利用したい」は 30～50 代で約 4 割と高い。また、「将来も利用するかわからない」は 60 代(38.0%)で高い。

職業別では、「利用している」が公務員(9%)、パート・アルバイト(8%)、「将来は利用したい」が農林漁業(75%)、商工販売サービス(52%)、団体職員(50%)、「将来も利用するかわからない」は商工販売サービス(30%)、専業主婦(34%)、無職(33%)、その他(35%)で高い。

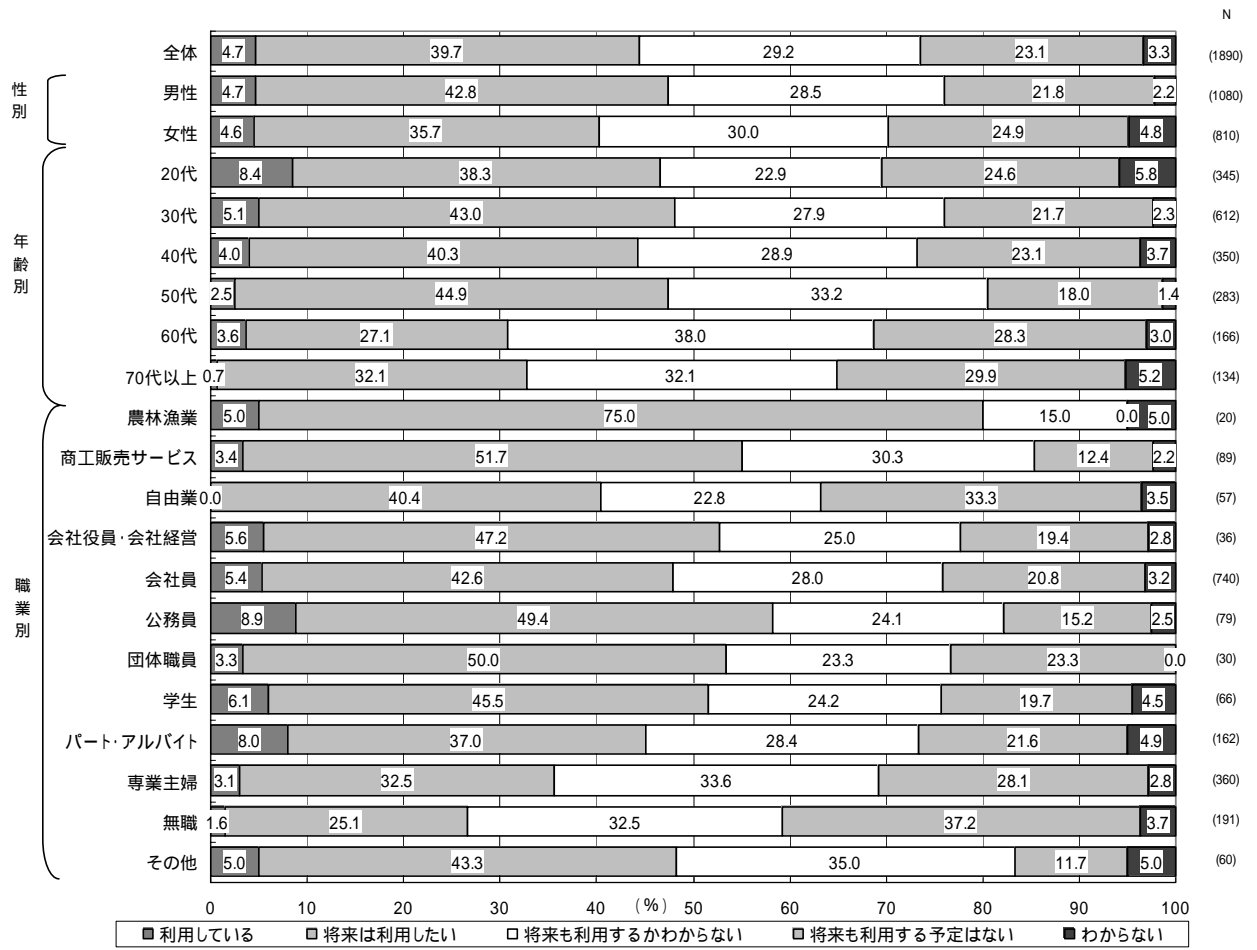
地域別では、九州で「将来は利用したい」が 49%と高い。

都市規模別では、都市規模が小さいほど、「利用している」「将来は利用したい」の割合が高い。

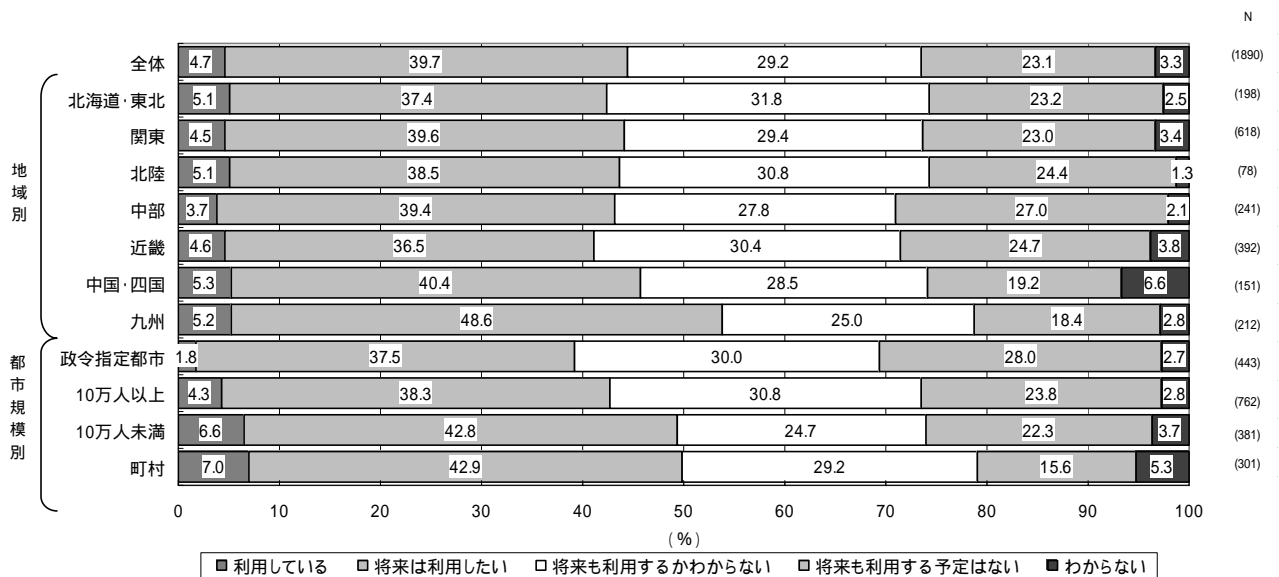
図表 4-13 太陽光発電器の利用状況(全体、時系列)



図表 4-14 太陽光発電器の利用状況(性別、年齢別、職業別)



図表 4-15 太陽光発電器の利用状況(地域別、都市規模別)



4-4-2 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱

住宅の断熱については、「住宅全体の断熱をしている」が2割弱、「住宅の一部で断熱している」が1割強あり、両者あわせて断熱している住宅比率は3割強である。将来の断熱への意向は2割強ある。

新築や改築・改装の際に断熱をしてある住宅は、「住宅全体の断熱をしている」(19%)、「住宅の一部で断熱している」(13%)をあわせて32%である。また、「将来は断熱をしたい」をあわせると全体の52%にのぼる。

今回調査は「わからない」の比率が高く、前回調査との比較を困難にしている。

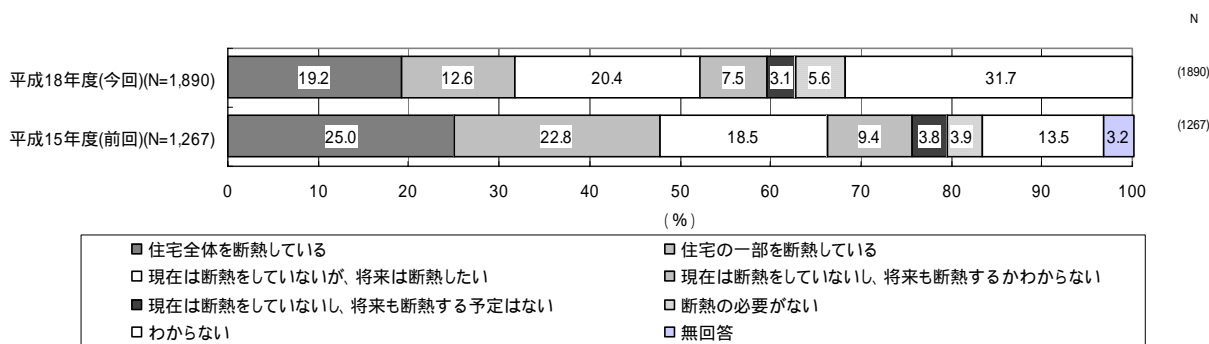
性別では、あまり差はない。

年齢別では、「全体を断熱している」が50代(27%)、60代(24%)でやや高い。

職業別では、「全体を断熱している」が公務員(27%)、会社役員・会社経営(25%)でやや高い。「将来はそうしたい」が農林漁業(40%)でやや高い。

地域別では、「全体を断熱している」が北海道・東北(33%)で高い。また、都市規模別では、規模が小さいほど断熱の実施をしている割合が高くなる。

図表 4-16 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱(全体、時系列)



4-5 低公害車の購入について

既に購入済みの者も含め、低公害車の購入を検討する者は過半数を超えており、少なくとも低公害車に対して何らかの興味を持っている者は、6割強に及ぶ。

低公害車・低排出ガス車について尋ねたところ、「すでに購入・発注済み」が14%、「検討対象としたい」が37%であった。また「興味はあるが検討しない」は15%、「購入・買い替え予定がない」が15%であった。『環境にやさしい自動車』になんらかの興味をもっている人(購入済・購入検討・興味有り)は、6割を占める。

前回調査と比較すると、「すでに購入・発注済み」は2ポイント減少しているが、「検討対象としたい」が約7ポイント上昇している。一方、「興味はあるが検討しない」が約14ポイント減少している。

性別では、「すでに購入・発注済み」では、差が見られないが、「検討対象としたい」で男性が40%で女性よりも高い。

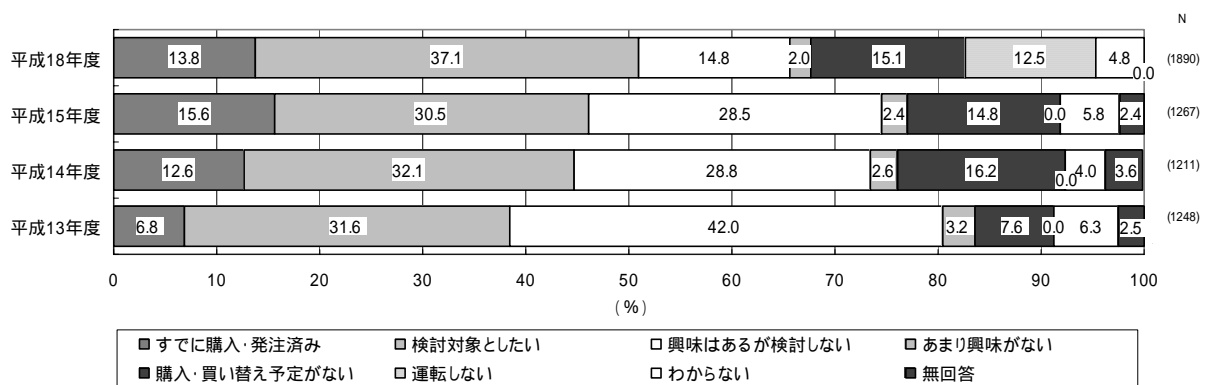
年齢別では、「すでに購入・発注済み」が若年層で高く、20代では15%、30代では15%、40代では16%を示している。また、「検討対象としたい」が30代(40%)、50代(41%)、60代(40%)でやや高い。

職業別では、「すでに購入・発注済み」が団体職員(30%)、公務員(25%)で高い。「検討対象としたい」が商工販売サービス(47%)、会社役員・会社経営(42%)、会社員(40%)、農林漁業(40%)、その他(42%)で高い。

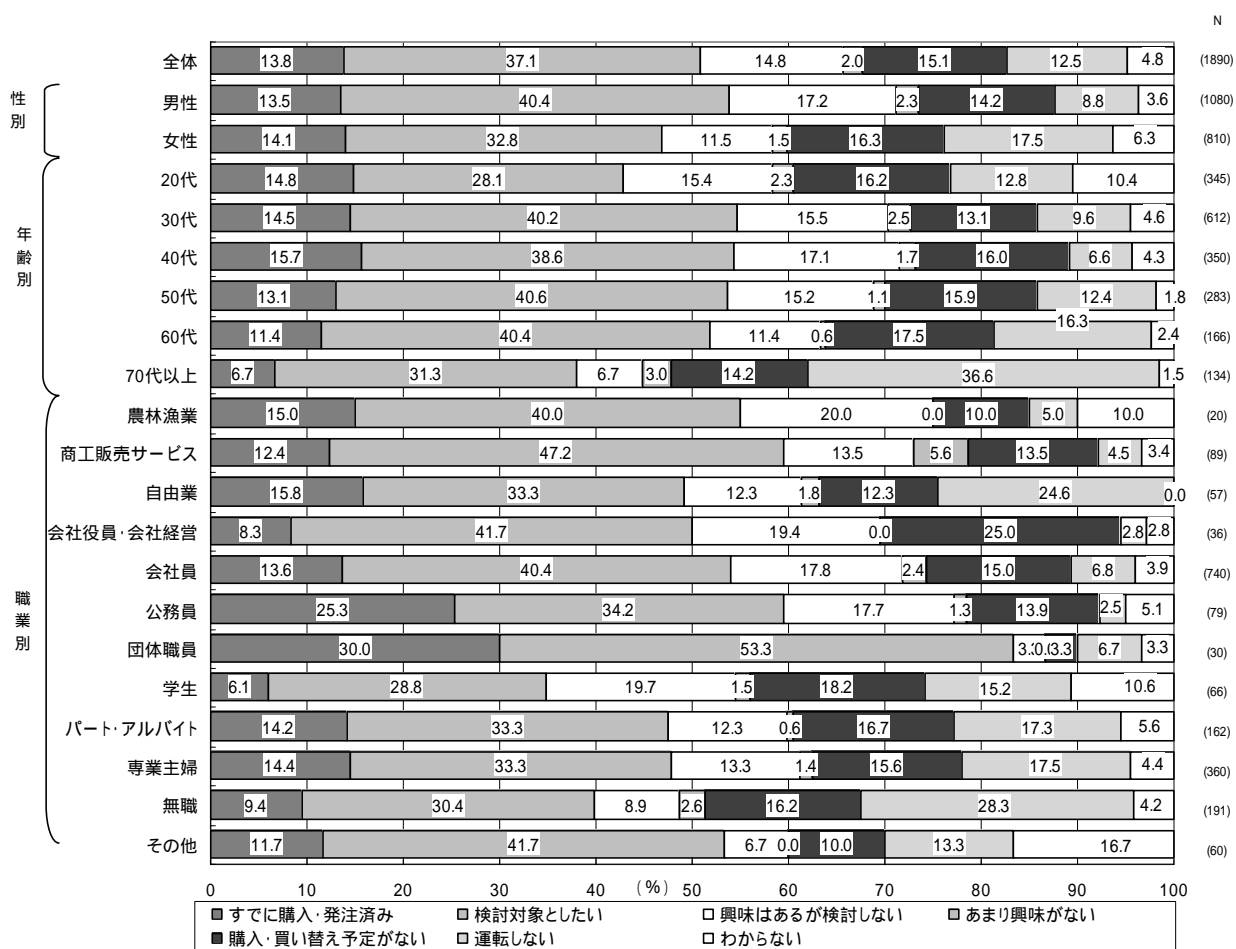
地域別では、「すでに購入・発注済み」が中部(17%)、四国・中国(17%)、九州(16%)で高く、「検討対象としたい」が北海道・東北(40%)、中部(41%)、九州(42%)で高い。

都市規模別では、「すでに購入・発注済み」が10万人未満の都市(18%)、町村(16%)で高い。

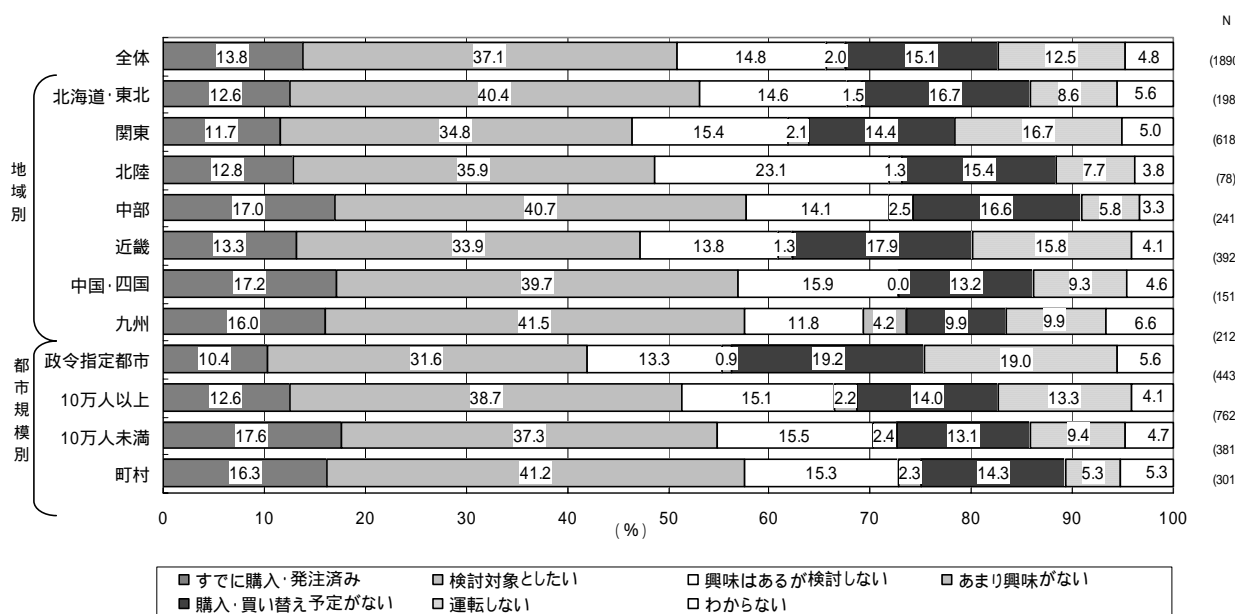
図表 4-19 低公害車の購入検討の有無(全体、時系列)



図表 4-20 低公害車の購入検討の有無(性別、年齢別、職業別)



図表 4-21 低公害車の購入検討の有無(地域別、都市規模別)



4-6 自然とのふれあい

4-6-1 自然とのふれあいについてのニーズ

自然とのふれあいについてのニーズはきわめて高く、「今より増やしたい」という意向は「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」と「自然とのふれあいを今より多少増やしたい」を合わせて70%にのぼる。年齢別では60代で、職業別では会社役員・会社経営で「大幅に増やしたい」とする意向が強くなっている。

自然のふれあいを「今より増やしたい」という人は、「自然とのふれあいを大幅に増やしたい」(27%)、と「自然とのふれあいを多少増やしたい」(43%)をあわせて70%にのぼる。また、「今程度を維持したい」という人も26%であり、大多数の人が自然のふれあいを求めているといえる。

前回調査と比較すると、「自然とのふれあいを多少増やしたい」という人が約5ポイント上昇している。性別では、男性が女性を「大幅に増やしたい」比率でやや上回る。

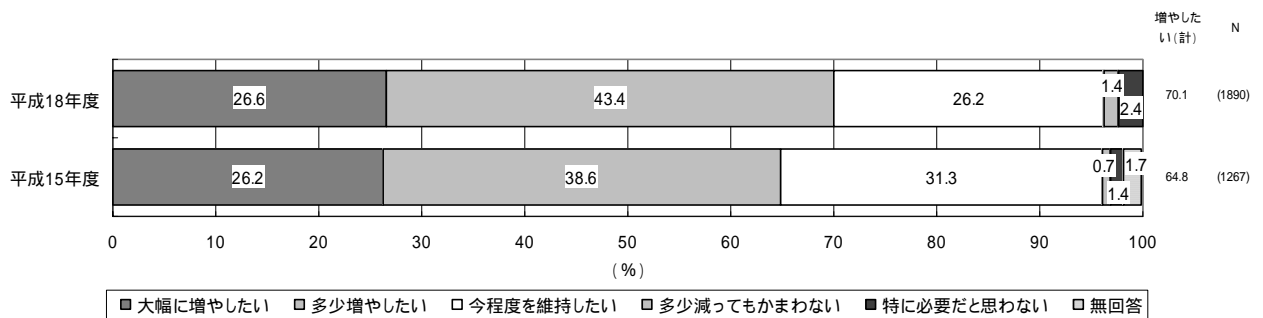
年齢別では、「大幅に増やしたい」が60代(36%)で高い。また、「多少増やしたい」が30代(46%)で高い。

職業別では、会社員、公務員、団体職員のニーズが高く、「大幅に増やしたい」「多少増やしたい」をあわせた比率は、それぞれ74%、77%、90%となっている。農林漁業はニーズが弱く、50%となっている。

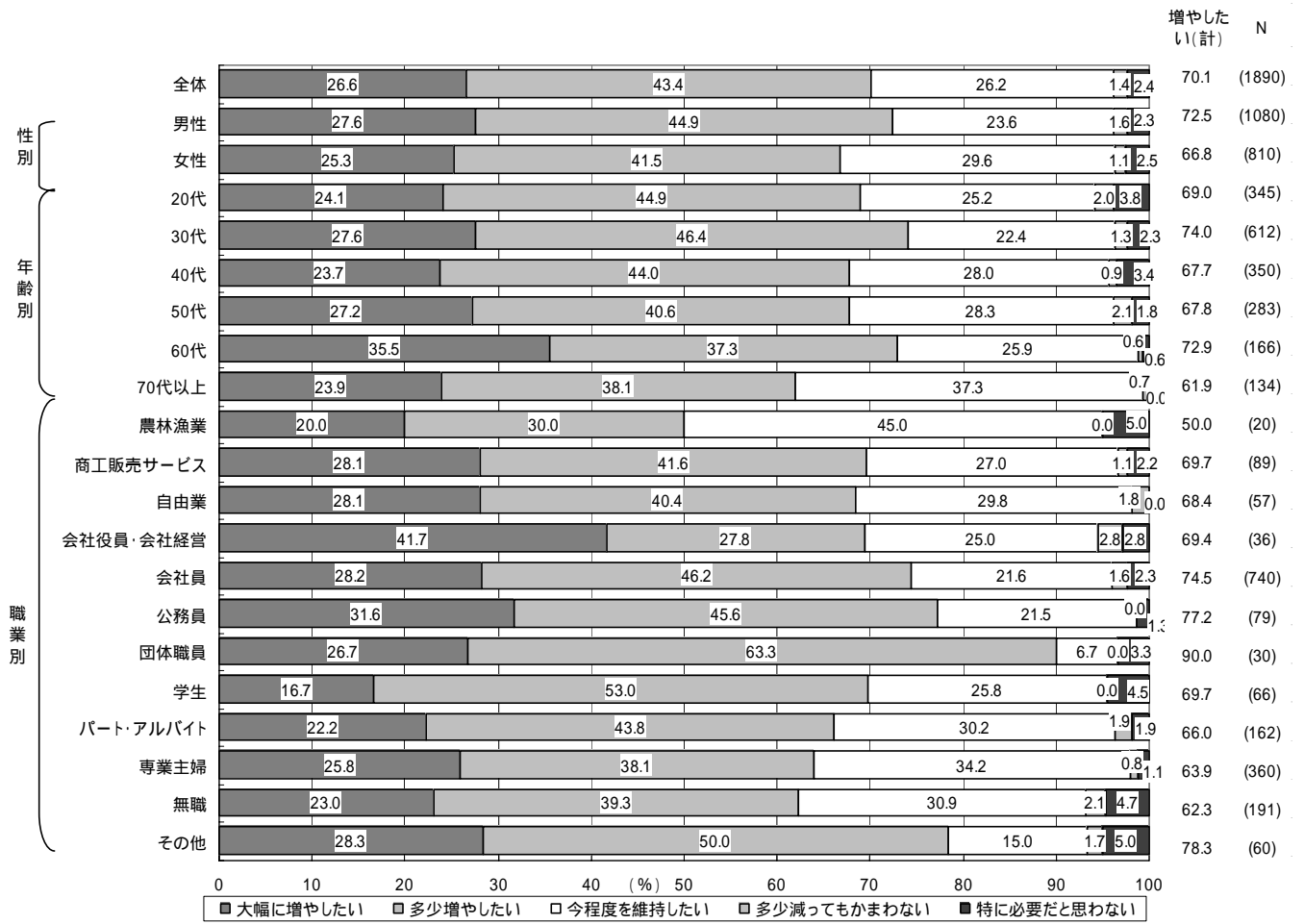
地域別では、北海道・東北、関東、北陸でニーズが高く、「大幅に増やしたい」「多少増やしたい」とする率は66~72%となっている。

都市規模別では、差は見られなかった。

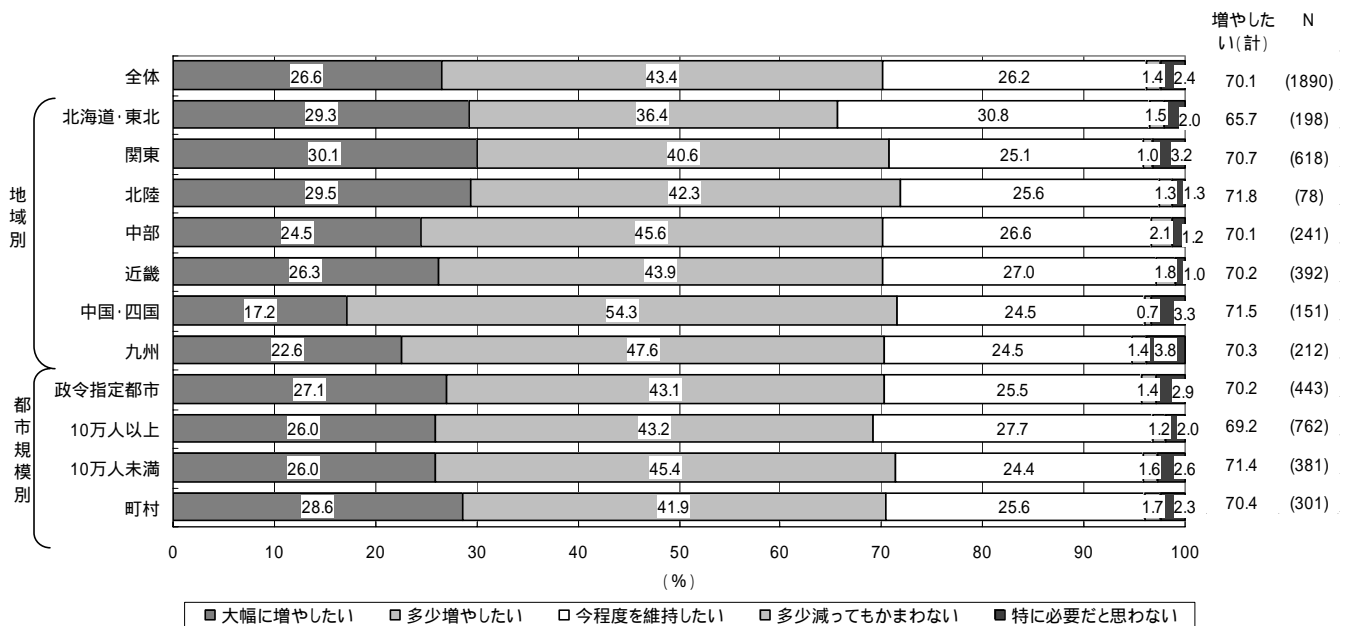
図表 4-22 自然とのふれあいについてのニーズ(全体、時系列)



図表 4-23 自然とのふれあい(性別、年齢別、職業別)



図表 4-24 自然とのふれあい(地域別、都市規模別)



4-6-2 自然とふれあって過ごしている日数

自然とふれあって過ごしている日数は年に20日未満が全体の63%を占め、前回調査と比較しても大きく増加している。一方、20日以上ふれあうとする比率は前回より減少し、ふれあい日数が短期化している。

自然とふれあって過ごしている日数は「年に10～19日」(27%)、「年に5～9日」(19%)が多く、両者の合計で全体の46%を占めている。

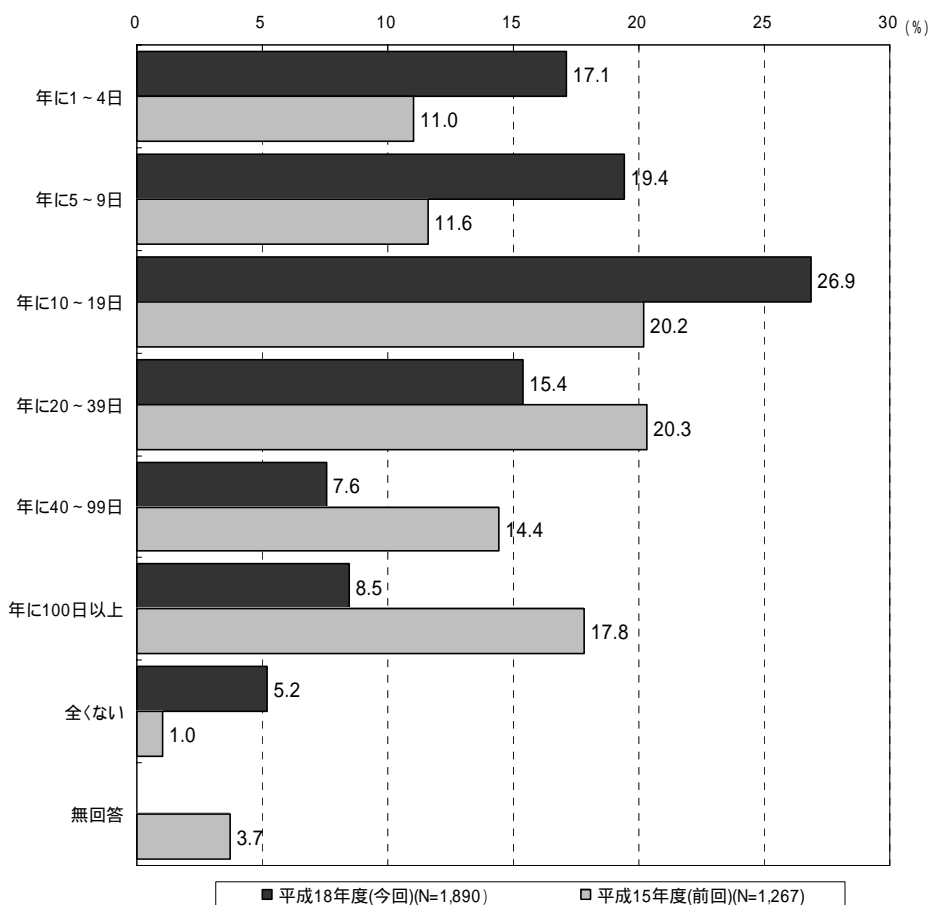
前回調査と比較すると、「年に10～19日」が6ポイント上昇し、「年に20～39日」が5ポイント減少している。「全くない」も含めて年に20日未満の短期は増加し、それ以上の長期は減少している。

性別では、あまり差が見られなかった。

年齢別では、各年代とも「年に10～19日」が高く、いずれも24～28%となっている。60代、70代以上では「年に100日以上」が全体と比較し高くなっておりそれぞれ16%となっている。

職業別では、商工販売サービス、会社員、公務員、団体職員、学生、パート・アルバイト、その他で「年に10～19日」が多い。また、農林漁業は自然とふれあって過ごす日数が多く「年に40～99日」「年に100日以上」がそれぞれ30%、25%となっている。

図表 4-25 自然とふれあって過ごしている日数(全体、時系列)



図表 4-26 自然とふれあって過ごしている日数(性別、年齢別、職業別)

単位: %

	性別			年代別							職業別										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60
年に1~4日	17.1	16.0	18.5	16.2	18.6	17.1	19.1	12.7	13.4	15.0	18.0	14.0	11.1	17.2	12.7	6.7	18.2	19.8	17.8	18.3	16.7
年に5~9日	19.4	19.6	19.1	21.7	21.4	18.3	20.1	13.3	13.4	5.0	18.0	17.5	19.4	21.8	19.0	26.7	24.2	20.4	18.1	12.0	20.0
年に10~19日	26.9	29.0	24.1	27.2	26.6	28.3	27.2	23.5	26.9	15.0	29.2	21.1	22.2	30.0	32.9	30.0	31.8	27.2	22.8	20.4	26.7
年に20~39日	15.4	15.4	15.4	13.3	15.4	16.6	13.1	19.3	17.9	5.0	16.9	21.1	16.7	15.4	17.7	13.3	9.1	13.6	16.7	14.7	15.0
年に40~99日	7.6	7.5	7.7	7.5	6.2	8.0	5.7	13.3	9.7	30.0	5.6	12.3	8.3	5.7	7.6	10.0	10.6	6.2	9.2	9.4	5.0
年に100日以上	8.5	7.8	9.4	6.7	6.4	6.0	10.2	16.3	15.7	25.0	6.7	8.8	16.7	5.8	7.6	6.7	4.5	4.9	11.7	14.7	10.0
全くない	5.2	4.7	5.8	7.2	5.4	5.7	4.6	1.8	3.0	5.0	5.6	5.3	5.6	4.2	2.5	6.7	1.5	8.0	3.9	10.5	6.7

地域別では、九州で「年に5~9日」が多く26%となっている。関東、中部、近畿、中国・四国では、「年に10~19日」が多く、どの地域別も約3割となっている。北海道・東北では、自然と触れ合う日数が多く「年に100日以上」が12%となっている。

都市規模別では、規模が大きいほど、自然とふれあって過ごしている日数は少なくなる傾向にある。

図表 4-27 自然とふれあって過ごしている日数(地域別、都市規模別)

単位: %

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301
年に1~4日	17.1	17.2	17.3	17.9	19.5	17.3	13.2	15.6	19.9	18.6	13.4	14.0
年に5~9日	19.4	20.7	17.6	17.9	17.0	19.9	19.2	25.9	19.0	20.1	18.1	19.9
年に10~19日	26.9	23.2	26.9	24.4	30.7	28.1	33.1	20.3	29.8	25.1	25.7	28.6
年に20~39日	15.4	12.6	14.7	17.9	16.2	15.1	17.2	17.5	13.1	16.1	16.3	15.6
年に40~99日	7.6	11.1	8.3	5.1	5.8	5.6	4.6	10.8	7.2	7.6	7.3	8.3
年に100日以上	8.5	12.1	8.9	9.0	7.5	8.7	6.6	5.7	4.1	8.1	13.1	10.0
全くない	5.2	3.0	6.3	7.7	3.3	5.4	6.0	4.2	7.0	4.3	6.0	3.7

4-6-3 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと

自然とのふれあいを増やすために必要なことについては、「自然環境の保全・育成」「身近に整備された自然とふれあうための場所」が5割を超え上位を占める。

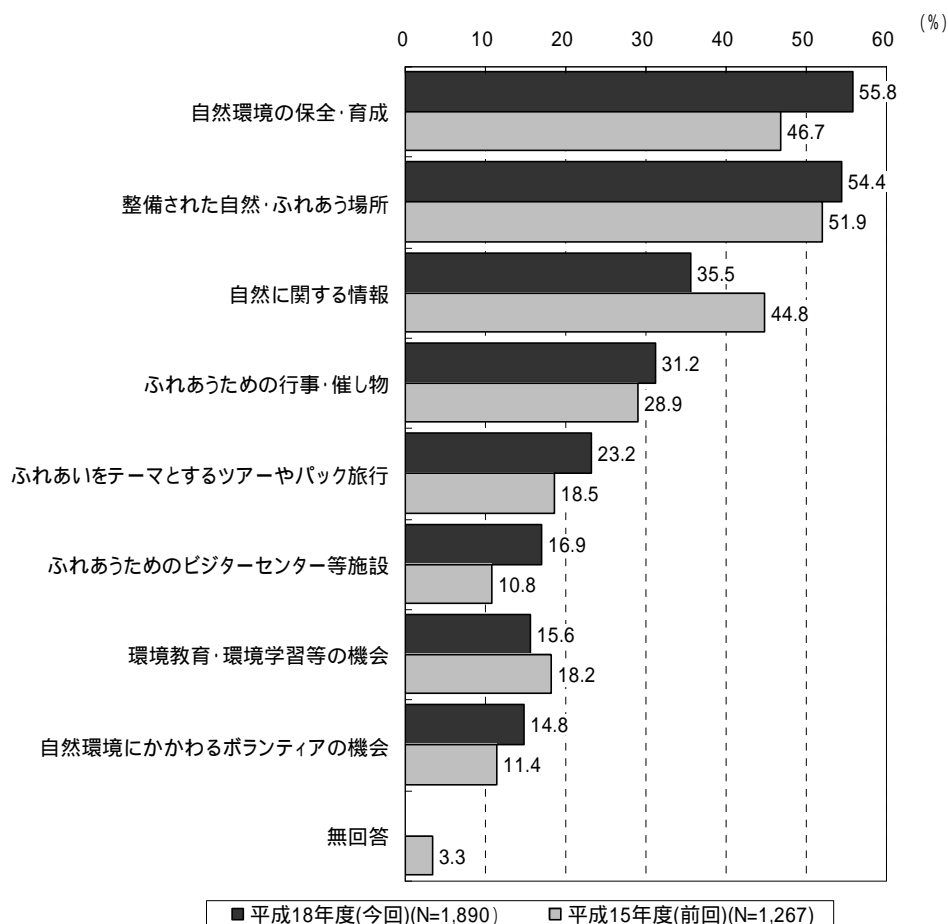
自然とのふれあいを増やすために必要なこととしては、「自然環境の保全・育成」(56%)、「整備された自然とふれあうための場所」(54%)を支持する人が5割を超え多い。これと比べると比率は低くなるが、「自然に関する情報」(36%)、「ふれあうための行事・催し物」(31%)に対する指摘も3割近くを占めている。

性別では、男性は女性より「整備された自然とふれあうための場所」(56%)、「ふれあうための行事・催し物」(33%)が、女性は男性より「ふれあいをテーマとするツアーやパック旅行」(25%)がやや多い。

年齢別では、20代で「ふれあうための行事・催し物」(36%)、40代、60代で「自然に関する情報」(37%、36%)、70代以上で「ふれあいをテーマとするツアーやパック旅行」(37%)、「自然環境にかかわるボランティアの機会」(20%)が多い。

職業別では、自由業、その他で「自然環境の保全・育成」(各65%)、自由業、会社役員・会社経営、会社員、専業主婦、無職で「整備された自然・ふれあう場所」(56%、56%、57%、55%、62%)、農林漁業、団体職員で「自然に関する情報」(各50%)、会社経営・会社役員で「ふれあうためのビジターセンター等施設」(33%)、「環境教育・環境学習等の機会」(25%)と高い傾向がうかがえる。

図表 4-28 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(全体、時系列:複数回答)



図表 4-29 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(性別、年齢別、職業別:複数回答)

単位:%

	性別			年代別							職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他		
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60		
自然環境の保全・育成	55.8	55.2	56.5	53.3	57.5	54.6	55.8	55.4	57.5	50.0	52.8	64.9	50.0	53.6	55.7	53.3	57.6	56.2	57.8	57.1	65.0		
整備された自然・ふれあう場所	54.4	55.7	52.7	54.2	53.9	52.6	51.6	59.0	62.7	50.0	46.1	56.1	55.6	56.5	51.9	43.3	50.0	48.1	55.0	62.3	43.3		
自然に関する情報	35.5	34.8	36.4	30.7	38.4	36.6	33.9	36.1	34.3	50.0	43.8	26.3	27.8	30.9	31.6	50.0	34.8	35.2	39.4	40.8	46.7		
ふれあうための行事・催し物	31.2	32.8	29.1	35.9	29.7	30.9	25.8	34.3	34.3	25.0	34.8	24.6	27.8	33.6	26.6	36.7	39.4	24.7	30.8	30.4	23.3		
ふれあいをテーマとするツアーやバック旅行	23.2	21.8	25.1	24.3	20.1	19.7	24.7	25.3	37.3	25.0	29.2	14.0	25.0	21.8	21.5	23.3	19.7	24.7	22.8	30.4	20.0		
ふれあうためのビジターセンター等施設	16.9	16.9	16.9	17.7	17.2	17.4	17.3	15.1	14.2	10.0	15.7	10.5	33.3	18.0	17.7	16.7	16.7	13.0	18.6	14.7	11.7		
環境教育・環境学習等の機会	15.6	16.7	14.2	14.5	16.0	16.9	14.5	13.9	17.9	15.0	18.0	15.8	25.0	14.2	20.3	23.3	13.6	11.1	14.7	20.9	16.7		
自然環境にかかわるボランティアの機会	14.8	15.5	14.0	15.1	13.6	14.9	13.4	16.9	20.1	20.0	21.3	17.5	16.7	13.8	16.5	16.7	13.6	16.0	11.7	18.8	13.3		

地域別では、北海道・東北、中部、近畿で「整備された自然とふれあうための場所」(57%、56%、59%)、北陸で「環境教育・環境学習等の機会」(24%)「ふれあうための行事・催し物」(39%)、北海道・東北、中部で「ふれあうためのビジターセンター等施設」(21%、22%)と高い傾向がうかがえる。

都市規模別では、都市規模が大きくなるに従い「ふれあいをテーマとするツアーやバック旅行」の指摘が大きくなる傾向がみられ、都市規模が小さくなるに従い「自然環境にかかわるボランティアの機会」の指摘が大きくなる傾向がみられる。

図表 4-30 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(地域別、都市規模別:複数回答)

単位:%

	全体	地域別							都市規模別				
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村	
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301	
自然環境の保全・育成	55.8	59.6	56.5	56.4	53.9	55.1	53.0	55.2	51.5	58.5	56.7	51.2	
整備された自然・ふれあう場所	54.4	56.6	52.4	51.3	56.4	58.9	49.0	52.8	63.2	53.5	48.6	53.8	
自然に関する情報	35.5	38.9	35.3	30.8	33.6	37.8	36.4	32.1	37.9	34.6	34.9	36.5	
ふれあうための行事・催し物	31.2	39.4	26.7	38.5	31.1	29.8	32.5	35.8	29.8	31.9	27.3	16.6	
ふれあいをテーマとするツアーやバック旅行	23.2	25.8	22.7	23.1	27.4	22.7	24.5	17.5	25.7	23.8	19.9	16.6	
ふれあうためのビジターセンター等施設	16.9	21.2	16.0	11.5	21.6	16.3	15.9	14.2	14.4	17.1	19.7	15.9	
環境教育・環境学習等の機会	15.6	15.2	13.6	24.4	18.3	16.1	15.9	14.6	15.6	13.6	19.4	21.6	
自然環境にかかわるボランティアの機会	14.8	20.2	14.2	11.5	11.2	16.6	11.3	16.0	13.5	13.5	17.6	34.6	

4-6-4 過去1年間の自然関連の旅行経験

過去1年間の自然関連旅行を経験している人の比率は6割である。その内訳では、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が約3割と最も多い。また、この比率は60代、会社経営・会社役員、公務員、団体職員で高くなっている。

過去1年間で何らかの自然関連の旅行経験がある人は64%ある（「上のような旅行はどれもしていない」を除いた比率）。旅行の内訳は、「自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が29%と高い。次いで、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」が27%となっている。以下、「山登りなどアウトドア活動の旅行」が22%、「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」が15%、「キャンプなど野外生活を体験する旅行」が14%、「動植物の観察旅行」が11%である。

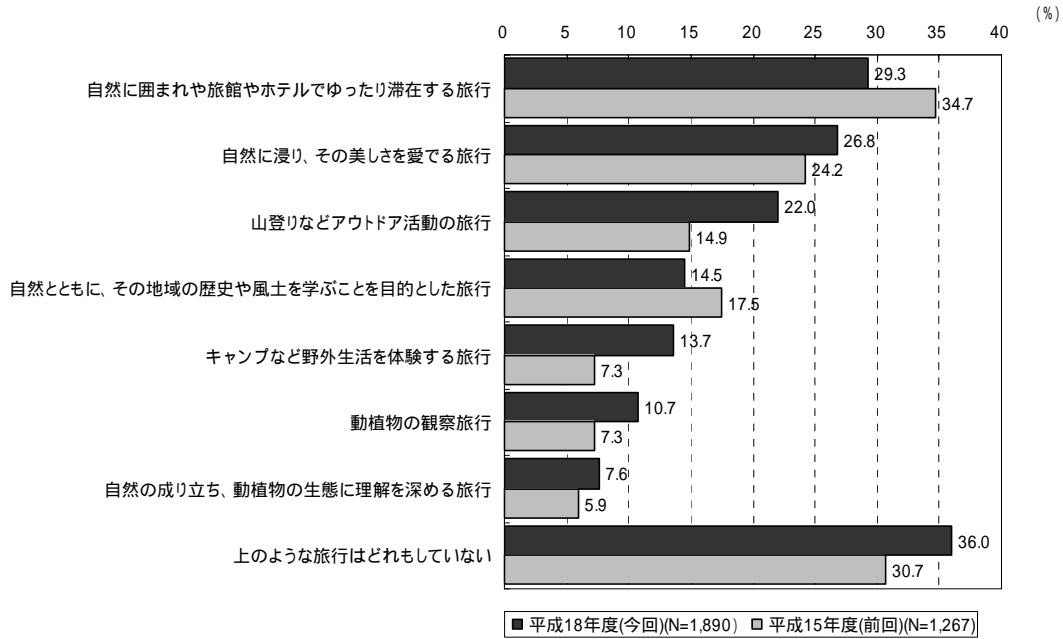
前回調査と比較すると、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」（35→29%）が減少し、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（24→27%）、「山登りなどアウトドア活動の旅行」（15→22%）が増加している。

性別では、男性が女性よりも「山登りなどアウトドア活動の旅行」（男性26%、女性17%）、「キャンプなど野外生活を体験する旅行」（男性15%、女性12%）が高い。一方で、女性が男性よりも「自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」（男性29%、女性30%）、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（男性26%、女性29%）が高い。

年齢別では、自然関連経験率は60代（70%）で最も高く、20代（62%）で最も低くなっている。60代、70代以上で「自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（35%・34%、36%・37%）で高い。20代、60代で「山登りなどアウトドア活動の旅行」（24%、24%）で高い。70代以上で「自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」が23%と高い。

職業別では、自然関連経験率は会社経営・会社役員（86%）、公務員（82%）、団体職員（80%）で高く、パート・アルバイト（53%）、無職（57%）、農林漁業（60%）で低くなっている。旅行内容では、農林漁業、公務員で「自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が（40%、42%）、会社役員・会社経営で「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」（42%）で、公務員で「山登りなどアウトドア活動の旅行」（35%）で高い傾向を示している。

図表 4-31 過去 1 年間の自然関連の旅行経験(全体、時系列:複数回答)



図表 4-32 過去 1 年間の自然関連の旅行経験(性別、年齢別、職業別:複数回答)

単位:%

	性別		年代別							職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他	
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60	
自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	29.3	28.5	30.4	27.5	28.8	27.7	29.0	34.9	34.3	40.0	30.3	33.3	38.9	29.5	41.8	30.0	30.3	21.0	30.3	27.2	18.3	
自然に浸り、その美しさを愛でる旅行	26.8	25.5	28.6	23.5	25.2	22.6	29.7	36.1	36.6	20.0	31.5	26.3	41.7	26.4	25.3	33.3	27.3	20.4	27.8	28.8	23.3	
山登りなどアウトドア活動の旅行	22.0	25.9	16.8	24.3	23.2	22.0	19.8	24.1	12.7	25.0	23.6	21.1	33.3	25.5	35.4	33.3	28.8	20.4	14.4	12.6	18.3	
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	14.5	14.2	14.9	11.6	12.3	13.7	18.4	16.9	23.1	0.0	24.7	10.5	33.3	12.3	13.9	23.3	16.7	11.7	13.9	18.3	16.7	
キャンプなど野外生活を体験する旅行	13.7	15.2	11.6	18.6	16.8	15.1	8.1	6.0	3.7	20.0	15.7	14.0	19.4	17.4	15.2	16.7	27.3	10.5	8.9	4.2	6.7	
動植物の観察旅行	10.7	11.6	9.6	12.8	10.3	8.9	9.9	12.7	11.9	0.0	9.0	8.8	16.7	10.8	15.2	6.7	18.2	8.6	10.8	11.0	6.7	
自然の成り立ち、動植物の生態に理解を深める旅行	7.6	7.4	7.9	7.0	9.0	5.7	7.4	7.8	8.2	0.0	7.9	10.5	16.7	6.5	16.5	0.0	10.6	4.3	9.2	8.4	1.7	
上のような旅行はどれもしていない	36.0	33.4	39.5	38.3	36.3	36.6	36.0	30.1	35.1	40.0	32.6	35.1	13.9	32.7	17.7	20.0	27.3	46.9	41.9	42.9	50.0	

地域別では、自然関連旅行経験率は、北海道・東北(65%)、中国・四国(66%)、九州(66%)で高く、北陸(60%)、近畿(60%)で低い。関東、中国・四国で「自然に囲まれや旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」(34%、32%)と高く、北陸で「山登りなどアウトドア活動の旅行」「キャンプなど野外生活を体験する旅行」(31%、21%)と高い傾向を示している。

都市規模別では、自然関連旅行経験率は、町村(70%)で高く、10万人未満(60%)で低い傾向を示す。都市規模が小さくなるにつれて「山登りなどアウトドア活動の旅行」が多くなる傾向がみられ、町村では27%に達する。

図表 4-33 過去1年間の自然関連の旅行経験(地域別、都市規模別:複数回答)

単位: %

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301
自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	29.3	28.8	33.7	19.2	31.1	24.2	31.8	26.4	28.2	32.9	25.5	26.2
自然に浸り、その美しさを楽しむ旅行	26.8	25.8	29.4	12.8	27.4	25.5	25.2	28.3	24.2	31.0	20.2	27.9
山登りなどアウトドア活動の旅行	22.0	22.7	22.5	30.8	23.7	21.4	22.5	15.6	19.2	21.8	21.8	26.9
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	14.5	15.7	13.1	16.7	14.5	14.8	16.6	14.6	14.2	15.4	13.1	14.6
キャンプなど野外生活を体験する旅行	13.7	16.7	12.8	20.5	14.5	11.2	13.9	14.2	12.0	14.4	13.4	14.6
動植物の観察旅行	10.7	11.1	10.0	9.0	11.6	10.2	13.9	10.8	10.4	11.5	10.2	10.0
自然の成り立ち、動植物の生態に理解を深める旅行	7.6	6.1	7.8	5.1	7.5	7.1	6.0	11.8	5.6	8.5	7.3	8.6
上のような旅行はどれもしていない	36.0	34.8	35.3	39.7	35.7	39.3	33.8	34.0	39.7	34.8	39.9	29.2

4-6-5 自然関連の旅行日数

過去1年間に自然関連の旅行をした人の旅行日数は「3～4日」が4割程度と最も多い。

年齢別では30代で「3～4日」(41%)、職業別では団体職員で「5～9日」(33%)、会社経営・会社役員で「10～15日」「16～20日」(各19%)の旅行が多い。

過去1年に自然関連の旅行をした人の旅行日数は、「3～4日」が37%でもっとも多く、次いで「1～2日」(23%)、「5～9日」(20%)である。

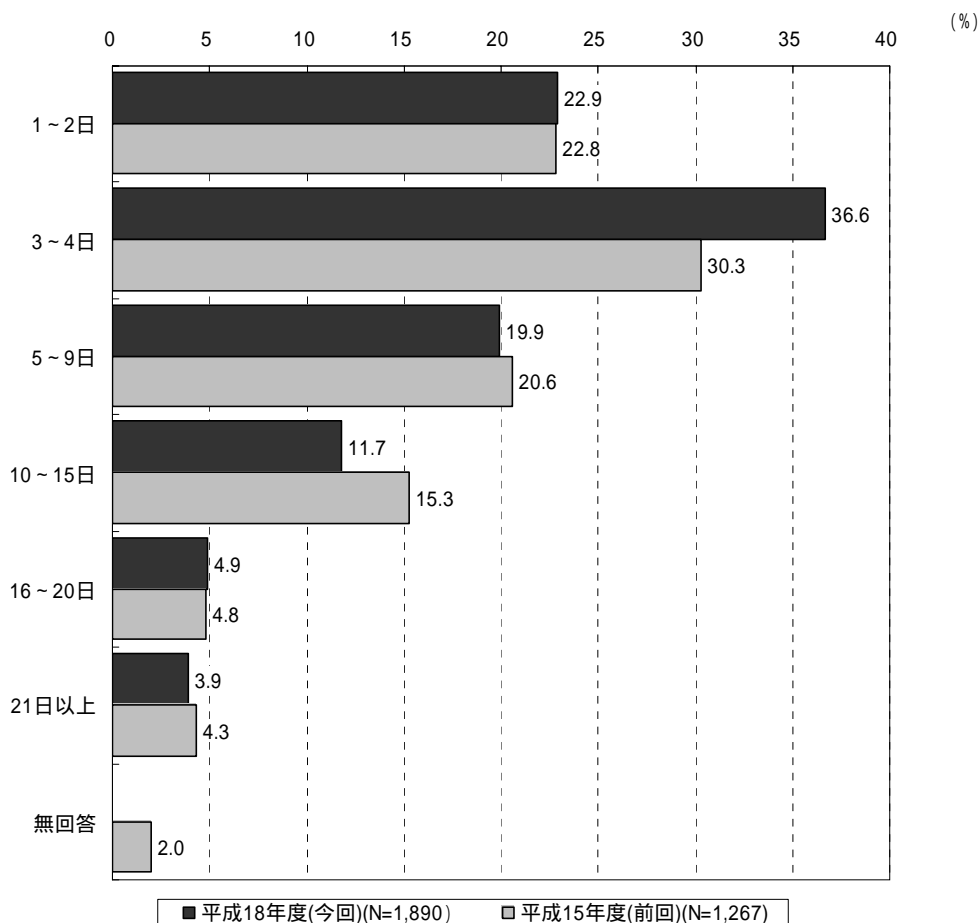
性別では、男性は「3～4日」(37%)、女性も同様に「3～4日」(36%)が最も多い。

年齢別では、すべてにおいて「3～4日」が30～41%と高くなっている。

職業別では、団体職員で「5～9日」(33%)、無職で「1～2日」(29%)、会社経営・会社役員で「10～15日」「16～20日」(各19%)が高い。

前回調査と比較すると、「3～4日」が上昇(30→37%)し、「10～15日」が減少(15→12%)している。

図表 4-34 自然関連の旅行日数(全体、時系列)



図表 4-35 自然関連の旅行日数(性別、年齢別、職業別)

単位: %

	性別			年代別							職業別										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,209	719	490	213	390	222	181	116	87	12	60	37	31	498	65	24	48	86	209	109	30
1~2日	22.9	21.8	24.5	23.9	26.7	20.3	19.3	19.0	23.0	25.0	15.0	13.5	16.1	24.7	18.5	20.8	8.3	31.4	22.5	29.4	16.7
3~4日	36.6	36.9	36.3	32.9	40.8	38.3	37.0	31.0	29.9	41.7	35.0	48.6	12.9	39.8	40.0	33.3	39.6	32.6	38.3	22.9	36.7
5~9日	19.9	19.2	21.0	21.1	17.7	23.0	21.5	19.8	16.1	16.7	28.3	10.8	16.1	18.5	18.5	33.3	29.2	18.6	20.1	19.3	26.7
10~15日	11.7	13.5	9.2	12.2	7.9	11.3	10.5	20.7	19.5	8.3	18.3	13.5	19.4	8.8	15.4	8.3	16.7	9.3	11.5	19.3	6.7
16~20日	4.9	5.0	4.7	6.1	3.8	4.1	6.1	4.3	6.9	8.3	1.7	8.1	19.4	5.0	4.6	4.2	4.2	3.5	4.3	1.8	10.0
21日以上	3.9	3.6	4.3	3.8	3.1	3.2	5.5	5.2	4.6	0.0	1.7	5.4	16.1	3.2	3.1	0.0	2.1	4.7	3.3	7.3	3.3

地域別では、北陸、中国・四国で「1~2日」(43%、34%)が高い傾向を示している。
都市規模別では、すべてにおいて「3~4日」が34~38%と高くなっている。。

図表 4-36 自然関連の旅行日数(地域別、都市規模別)

単位: %

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,209	129	400	47	155	238	100	140	267	497	229	213
1~2日	22.9	24.0	17.5	42.6	16.8	23.5	34.0	28.6	18.4	22.5	23.6	29.1
3~4日	36.6	35.7	36.3	25.5	40.6	39.5	33.0	35.7	37.1	37.8	35.4	34.3
5~9日	19.9	15.5	22.3	12.8	16.8	19.7	20.0	23.6	20.2	17.5	24.5	20.7
10~15日	11.7	14.7	12.5	10.6	14.8	10.5	8.0	8.6	13.1	12.7	10.0	9.4
16~20日	4.9	5.4	5.8	8.5	3.2	4.2	5.0	3.6	7.9	5.0	1.7	4.2
21日以上	3.9	4.7	5.8	0.0	7.7	2.5	0.0	0.0	3.4	4.4	4.8	2.3

4-6-6 今後の自然関連の旅行の意向

今後の自然関連の旅行意向は強く、「今よりも多く行きたい」が 56%ある。また、「今と同じ程度でいいと思う」は 41%ある。特に強い意向を示しているのは、60代、団体職員である。

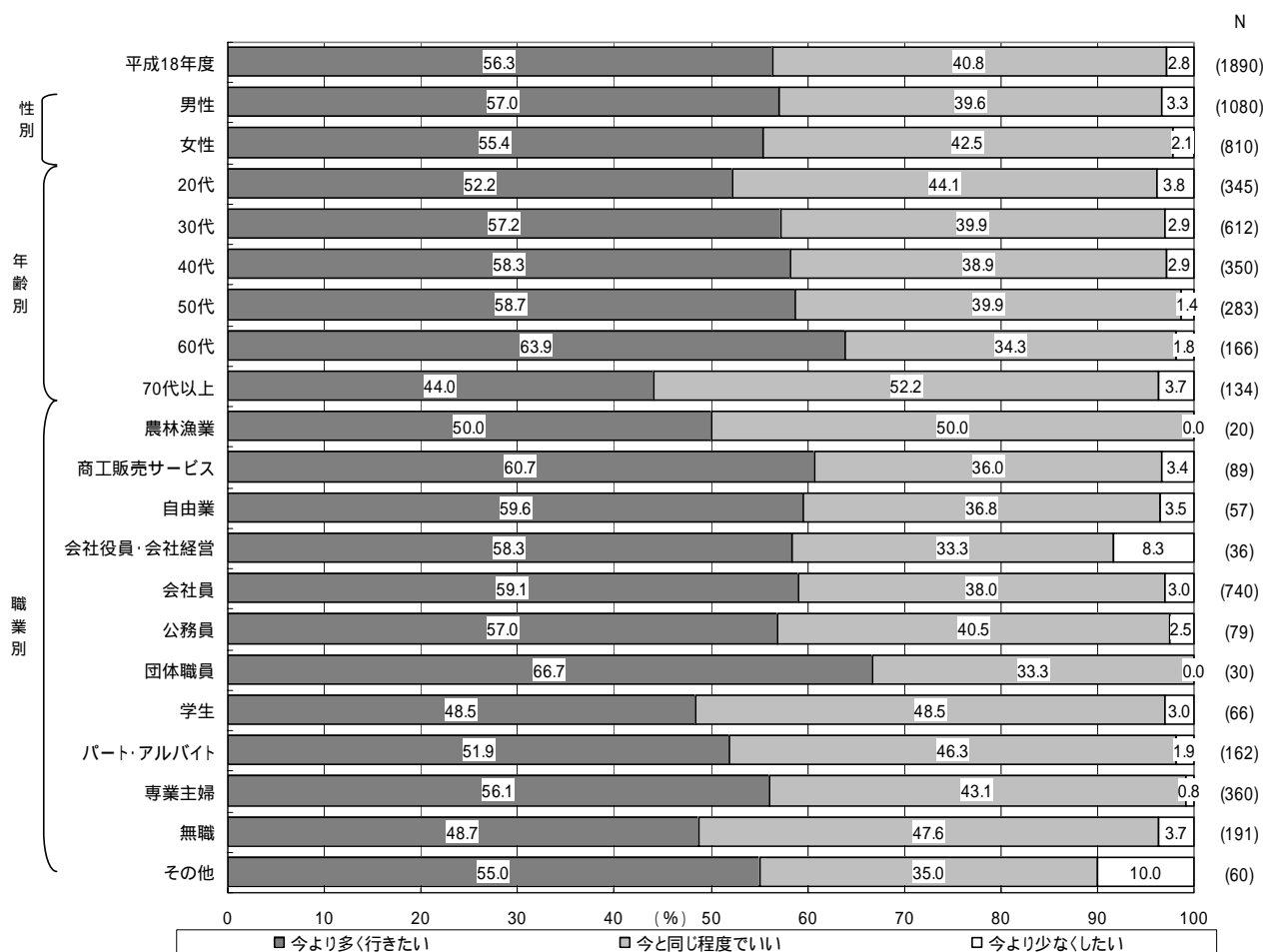
今後の自然関連の旅行意向は、「今よりも多く行きたい」が 56%で、「今と同じ程度でいい」が 41%、「今より少なくしたい」が 3%である。

性別では、「今よりも多く行きたい」は男性(57%)が女性(55%)を上回っているが、「今より少なくしたい」は女性(2%)より男性(3%)の方が多い。

年齢別では、70代以上で、「今よりも多く行きたい」が 44%となっているが、20代から60代にかけては、年齢が上がるにつれて意向が強まる。

職業別では、「今よりも多く行きたい」が団体職員(67%)で高く、次いで商工販売サービス(61%)、自由業(60%)と続く。「今より少なくしたい」は会社経営・会社役員(8%)でやや高い。

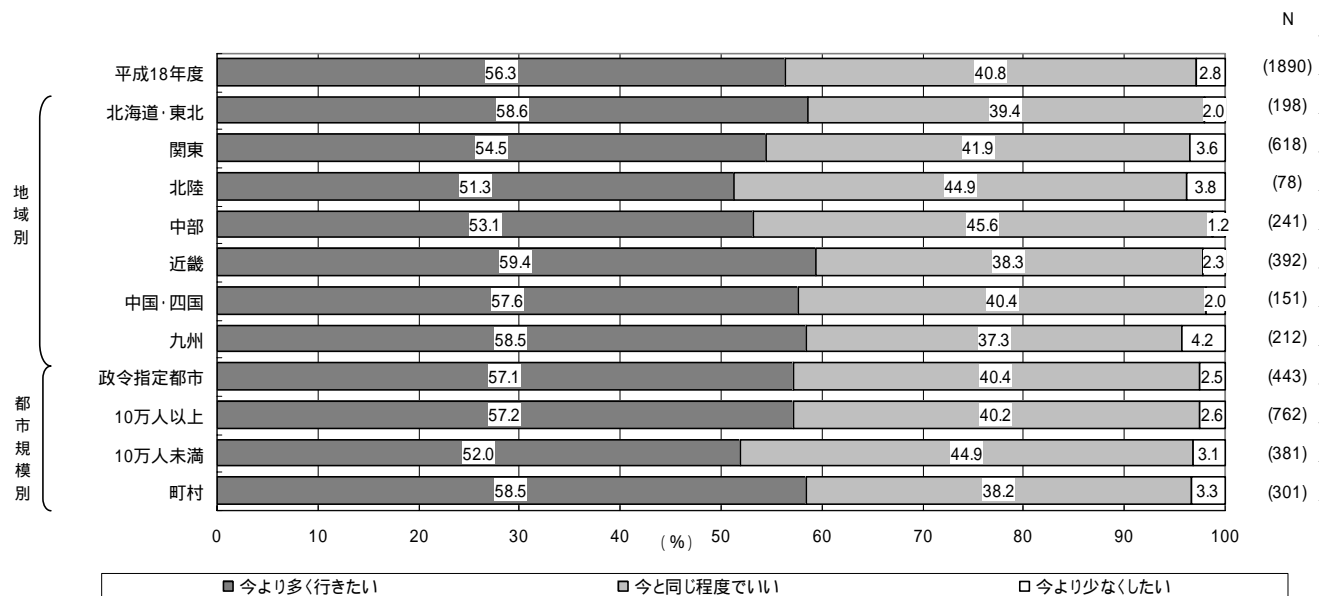
図表 4-37 今後の自然関連の旅行意向(性別、年齢別、職業別)



地域別では、北海道・東北と近畿で「今よりも多く行きたい」(59%)、北陸、中部で「今と同じ程度でいい」(45%、46%)が高い傾向を示している。

都市規模別では、町村、10万人以上の都市、政令指定都市で「今よりも多く行きたい」(59%、57%、57%)で高く、10万人未満の都市では52%と低くなっている。

図表 4-38 今後の自然関連の旅行意向(地域別、都市規模別)



4-6-7 居住地域の環境資源について

居住地域にある観光資源としてあげられたものは、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(57%)、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(51%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(42%)が上位を占める。

現在の居住地域に他の地域から旅行などで人が訪れる場合、その人たちに見て欲しい、あるいは楽しんで欲しいと思うもの、つまり、居住者からみた観光資源は、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」が57%で最も高い。次いで、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」が51%、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」が42%である。

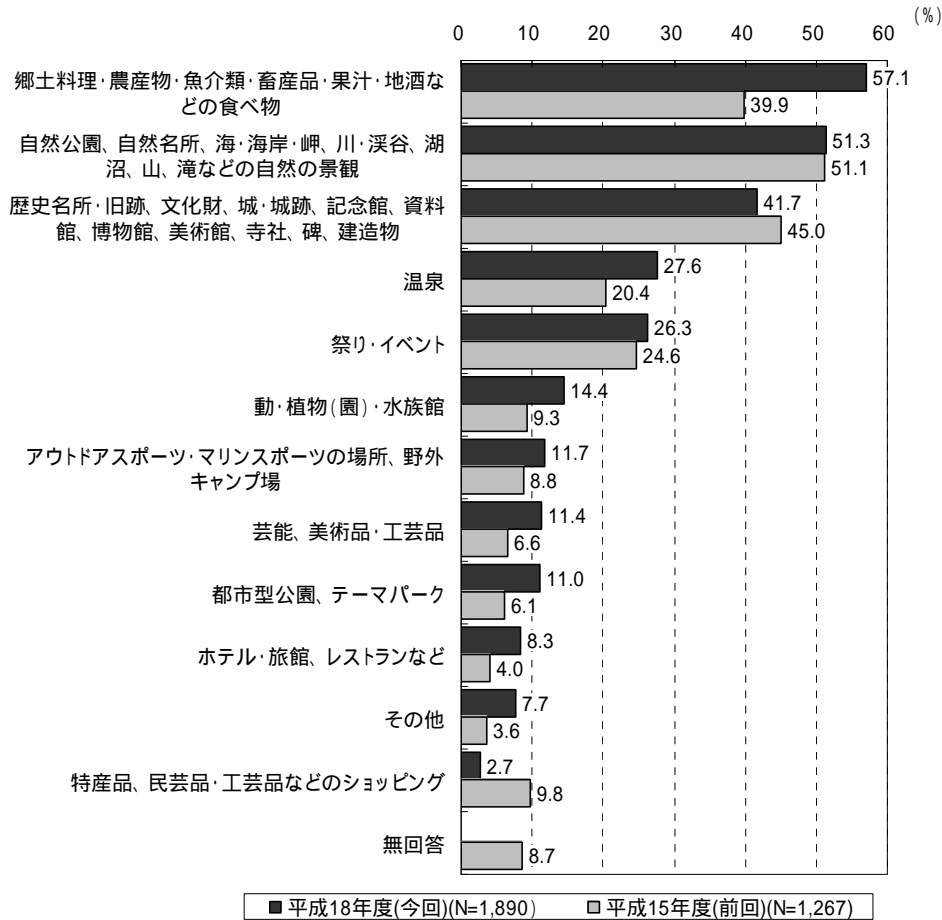
前回調査と比較すると、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(40→57%)が上昇し、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(45→42%)が減少している。

性別では、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」は女性(65%)が男性(52%)より高い。

年齢別では、20代、30代、40代で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(68%、64%、59%)で高く、60代(36%)で低くなっている。年齢が上がるにつれて「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」は高い傾向を示している。

職業別では、農林漁業で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」、「温泉」(95%、55%)、会社役員・会社経営、団体職員で「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(56%、67%)、商工販売サービス、自由業で「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(53%、54%)、学生、その他で「祭り・イベント」(33%、30%)、専業主婦で「動植物(園)・水族館」(18%)、会社役員・会社経営で「アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場」(22%)、商工販売サービスで「芸能、美術品・工芸品」(19%)が、相対的に高くなっている。

図表 4-39 居住地の観光資源(全体、時系列:複数回答)



図表 4-40 居住地の観光資源(性別、年齢別、職業別:複数回答)

観光資源	性別		年代別							職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他	
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60	
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	57.1	51.6	64.6	68.1	64.4	58.9	44.5	36.1	44.0	95.0	60.7	54.4	66.7	55.3	60.8	70.0	63.6	56.8	60.6	48.2	50.0	
自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・渓谷、湖沼、山、滝などの自然の景観	51.3	50.6	52.2	49.0	50.3	55.4	50.9	48.8	55.2	45.0	49.4	45.6	55.6	50.5	53.2	66.7	53.0	50.6	54.7	49.2	45.0	
歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物	41.7	41.0	42.6	35.4	38.2	42.0	44.5	48.8	58.2	35.0	52.8	54.4	41.7	36.1	49.4	43.3	43.9	40.7	42.2	47.6	51.7	
温泉	27.6	27.1	28.1	31.6	28.1	28.3	23.7	23.5	26.1	55.0	21.3	24.6	25.0	28.8	35.4	40.0	33.3	23.5	26.9	25.1	16.7	
祭り・イベント	26.3	26.5	26.0	29.9	27.1	30.9	21.9	20.5	17.9	25.0	27.0	24.6	27.8	26.4	26.6	23.3	33.3	24.7	25.8	25.1	30.0	
動・植物(園)・水族館	14.4	13.4	15.8	14.2	16.8	13.7	11.3	13.3	14.2	10.0	7.9	15.8	8.3	14.3	12.7	13.3	15.2	13.6	17.5	14.7	15.0	
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	11.7	12.2	11.1	14.2	12.1	13.7	9.5	10.8	4.5	15.0	10.1	12.3	22.2	12.8	21.5	13.3	18.2	12.3	10.0	4.7	3.3	
芸能、美術品・工芸品	11.4	9.9	13.3	13.0	12.1	11.1	6.7	9.6	16.4	15.0	19.1	10.5	11.1	10.4	11.4	10.0	12.1	16.0	8.6	12.0	13.3	
都市型公園、テーマパーク	11.0	11.8	10.0	11.0	14.1	8.0	8.8	10.8	9.7	5.0	11.2	5.3	16.7	12.2	11.4	16.7	12.1	9.9	9.2	10.5	11.7	
ホテル・旅館、レストランなど	8.3	7.7	9.1	8.1	9.8	5.4	5.7	9.6	13.4	15.0	6.7	0.0	11.1	6.9	10.1	16.7	7.6	11.1	8.6	12.6	3.3	
その他	7.7	7.2	8.4	7.8	7.7	6.6	11.7	4.8	6.0	0.0	7.9	15.8	5.6	6.9	3.8	3.3	9.1	9.3	7.5	6.8	20.0	
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	2.7	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	3.9	10.2	17.2	0.0	2.2	1.8	8.3	0.8	1.3	3.3	0.0	1.2	4.2	9.4	3.3	

地域別では、関東や近畿では、全要素を通じて環境資源をあげる比率は比較的少ない。北海道・東北、北陸、中国・四国で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(86%、90%、83%)、北海道・東北、中国・四国で「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(67%、56%)、近畿、中国・四国で「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(50%、52%)、北海道・東北で「温泉」(53%)、北海道・東北、北陸で「祭り・イベント」(41%、42%)を挙げる割合が高い。

都市規模別では、政令指定都市で最も高いのは、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(50%)となっており、次いで「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(46%)となっている。その他の規模の都市も同様に、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」を支持が最も高い。

図表 4-41 居住地域の観光資源(地域別、都市規模別:複数回答)

単位: %

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	57.1	86.4	43.5	89.7	51.0	40.1	82.8	77.8	50.1	54.3	63.5	66.8
自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観	51.3	67.2	47.1	51.3	49.4	44.9	56.3	59.4	42.2	51.4	57.2	57.1
歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物	41.7	39.4	35.9	41.0	42.7	49.5	52.3	37.7	45.6	44.1	37.0	35.5
温泉	27.6	53.0	17.8	51.3	23.7	17.1	38.4	39.6	23.0	25.7	27.6	39.2
祭り・イベント	26.3	41.4	19.7	42.3	26.6	22.4	33.8	26.9	25.5	24.4	29.7	27.9
動・植物(園)・水族館	14.4	19.7	16.2	9.0	14.5	9.4	10.6	18.4	19.9	12.5	15.2	10.6
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	11.7	16.7	12.1	12.8	11.2	5.1	14.6	16.5	9.3	9.6	13.6	18.6
芸能、美術品・工芸品	11.4	10.1	8.4	21.8	11.2	10.2	14.6	17.5	9.9	13.3	10.5	10.0
都市型公園、テーマパーク	11.0	6.1	15.4	2.6	8.7	13.0	5.3	9.0	19.2	9.3	6.3	9.3
ホテル・旅館、レストランなど	8.3	9.6	8.7	14.1	6.2	6.4	9.9	8.5	10.6	8.0	7.1	7.3
その他	7.7	4.0	11.7	0.0	6.2	9.7	3.3	3.8	11.3	8.1	6.0	3.7
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	2.7	3.5	2.4	3.8	1.7	4.1	2.6	0.9	2.7	3.7	2.1	1.0